

推寺住宅

夕陽ヶ丘住宅

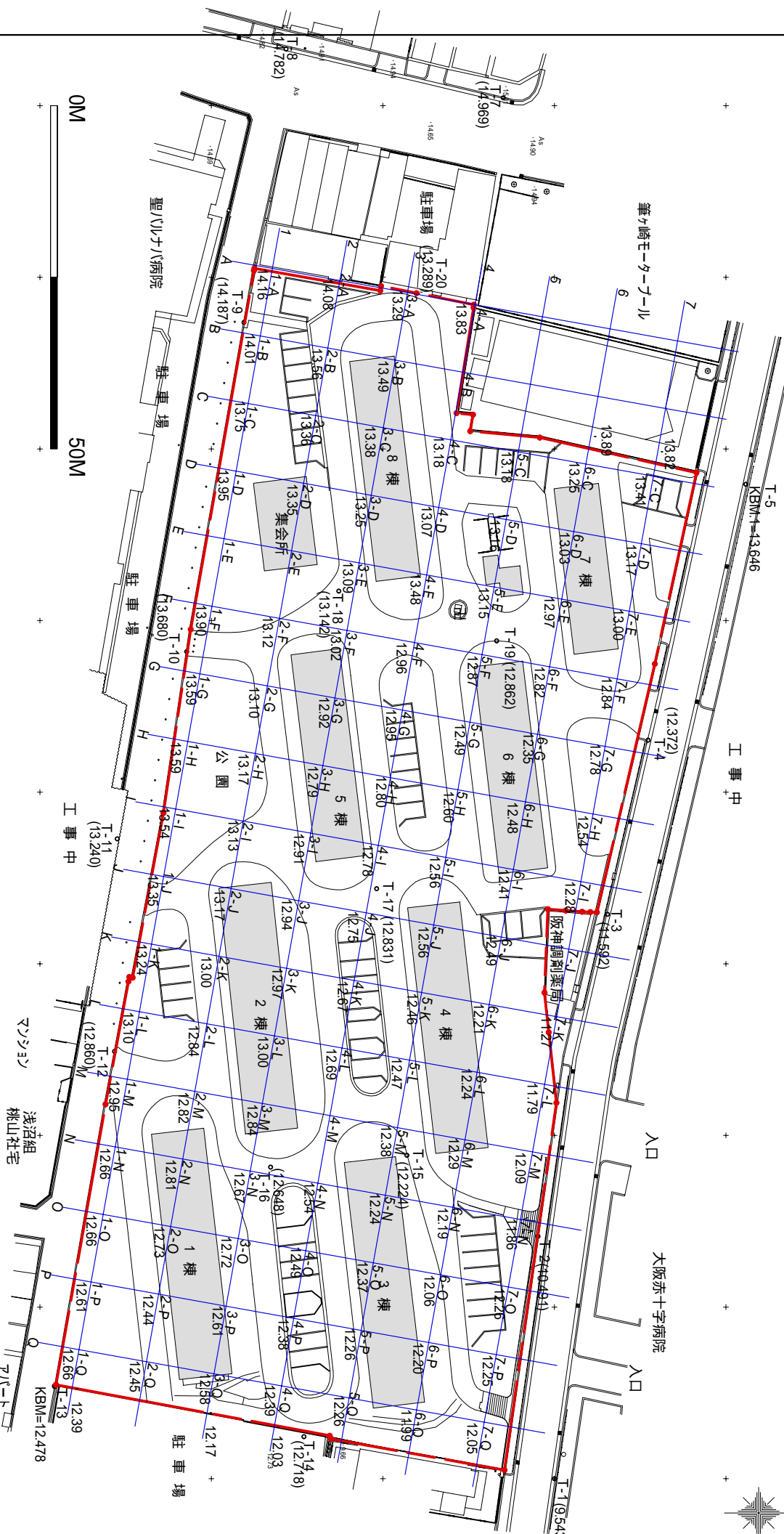
筆ヶ崎住宅(事業用地)

Y.300 Y.325 Y.350 Y.375 Y.400 Y.425 Y.450 Y.475 Y.500

○T-6
(15296)

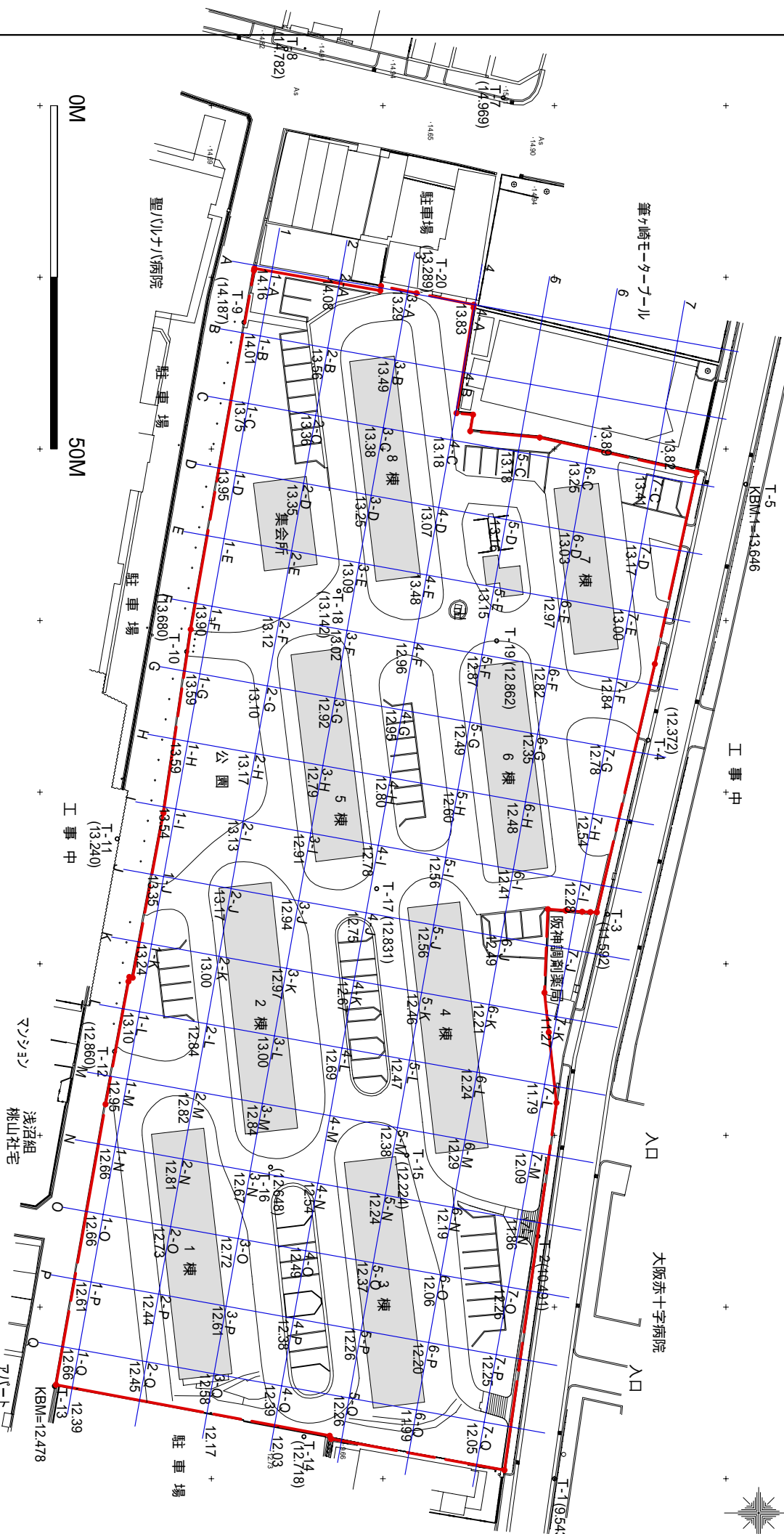
事業用地

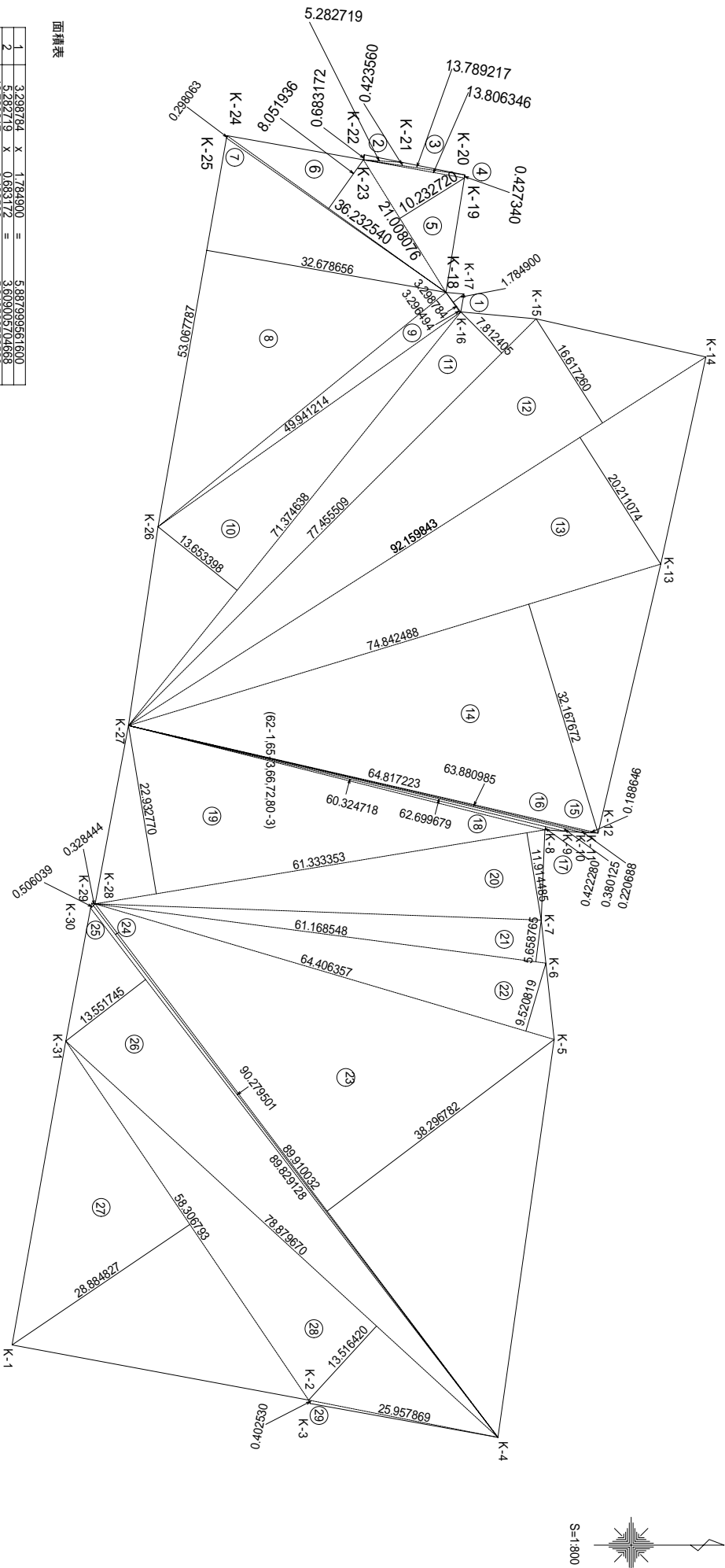
現状建物



0M 50M

Y.300 Y.325 Y.350 Y.375 Y.400 Y.425 Y.450 Y.475 Y.500





面積表

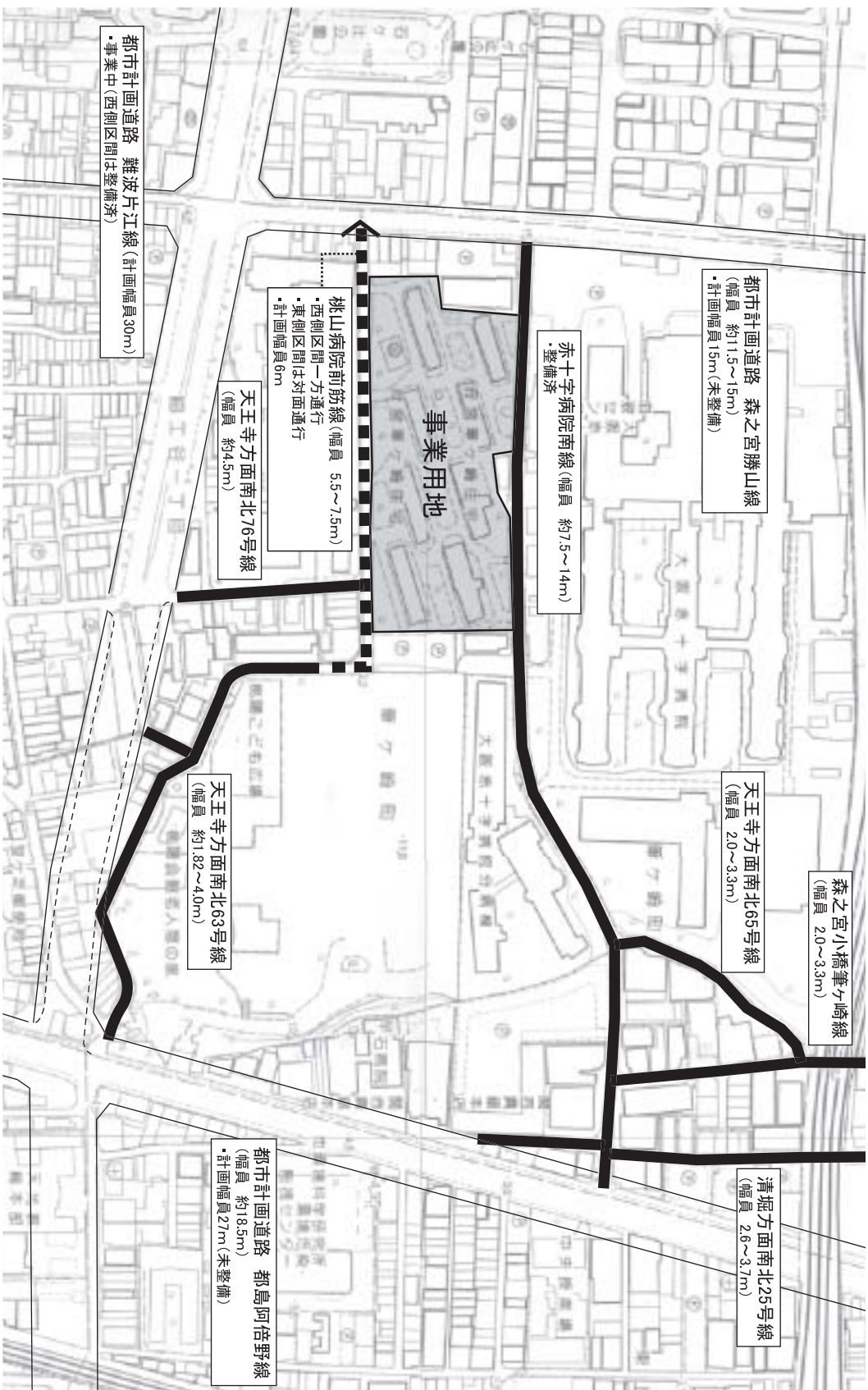
1	3,298,784	X	1,782,900	=	5,887,999,956,1600
2	3,782,117	X	0,458,972	=	5,896,900,745,606
3	13,806,546	X	0,427,340	=	5,849,600,745,610
4	21,008,076	X	10,232,720	=	214,969,759,446,720
5	36,232,540	X	8,051,936	=	291,742,093,197,440
6	53,067,787	X	32,578,656	=	1734,183,956,504,271
7	49,942,214	X	3,296,494	=	164,630,912,303,716
8	71,574,638	X	13,653,398	=	974,506,339,719,924
9	77,455,509	X	7,812,405	=	606,113,805,789,145
10	92,159,843	X	16,617,260	=	1531,444,076,900,179
11	92,159,843	X	20,211,074	=	1867,659,406,701,382
12	74,842,888	X	32,161,612	=	2407,508,605,679,396
13	64,817,223	X	0,186,846	=	1,227,709,850,657
14	63,880,965	X	0,420,996	=	23,987,068,146,890
15	60,929,478	X	0,422,280	=	25,429,921,917,056
16	61,333,353	X	22,932,770	=	1406,543,876,178,110
17	61,333,353	X	11,914,485	=	730,755,314,318,205
18	61,333,353	X	5,658,755	=	346,138,435,822,219
19	64,406,357	X	9,320,819	=	613,201,267,446,982
20	89,910,032	X	38,296,782	=	344,226,498,517,025
21	90,279,501	X	0,328,444	=	29,651,760,426,444
22	90,279,501	X	0,506,039	=	45,684,948,065,399
23	89,829,128	X	1,851,745	=	1217,341,436,282,860
24	58,306,793	X	23,884,827	=	1684,181,629,799,310
25	78,879,670	X	13,518,420	=	1068,170,491,814,000
26	25,957,869	X	0,402,530	=	10,448,821,008,569
27					計 20487,801,952,617,574
28					1/2面積 10243,900,976,283,710
29					面積 10243,900,976,283,710

座標記入

点番	点名	X座標	Y座標	標高
2329	K-1	427,330	498,303	0.000
337	K-2	467,235	493,729	12.757
137	K-3	467,427	494,177	13.512
140	K-4	492,705	498,738	13.130
155	K-5	500,280	445,232	12.873
134	K-6	499,155	434,973	13.539
133	K-7	498,535	429,184	13.626
114	K-8	499,026	417,028	13.730
112	K-9	501,624	417,398	13.516
113	K-10	504,024	417,450	13.421
112	K-11	505,225	417,475	12.812
154	K-12	506,180	417,475	13.354
110	K-13	514,619	381,303	13.354
147	K-14	520,694	353,455	13.171
27	K-15	497,840	348,923	14.508
25	K-16	487,714	347,388	13.725
47	K-17	488,127	344,993	16.138
26	K-18	485,707	344,770	13.722
34	K-19	488,196	329,397	13.610
227	K-20	488,249	328,972	0.000
238	K-21	479,882	327,292	0.000
23	K-22	474,712	326,253	13.695
2326	K-23	474,612	326,931	0.000
2286	K-24	456,240	323,687	0.000
98	K-25	456,182	324,012	12.827
97	K-26	446,875	376,215	12.816
96	K-27	442,996	403,017	12.858
95	K-28	438,508	426,999	12.861
138	K-29	438,023	426,903	13.359
92	K-30	437,894	427,669	13.024
91	K-31	434,554	445,442	13.013

添付図④ 道路現況図

計画にあたっては、現地調査の上適正な土地利用を考案すること。



■ 事業用地

— 地区内の認定道路

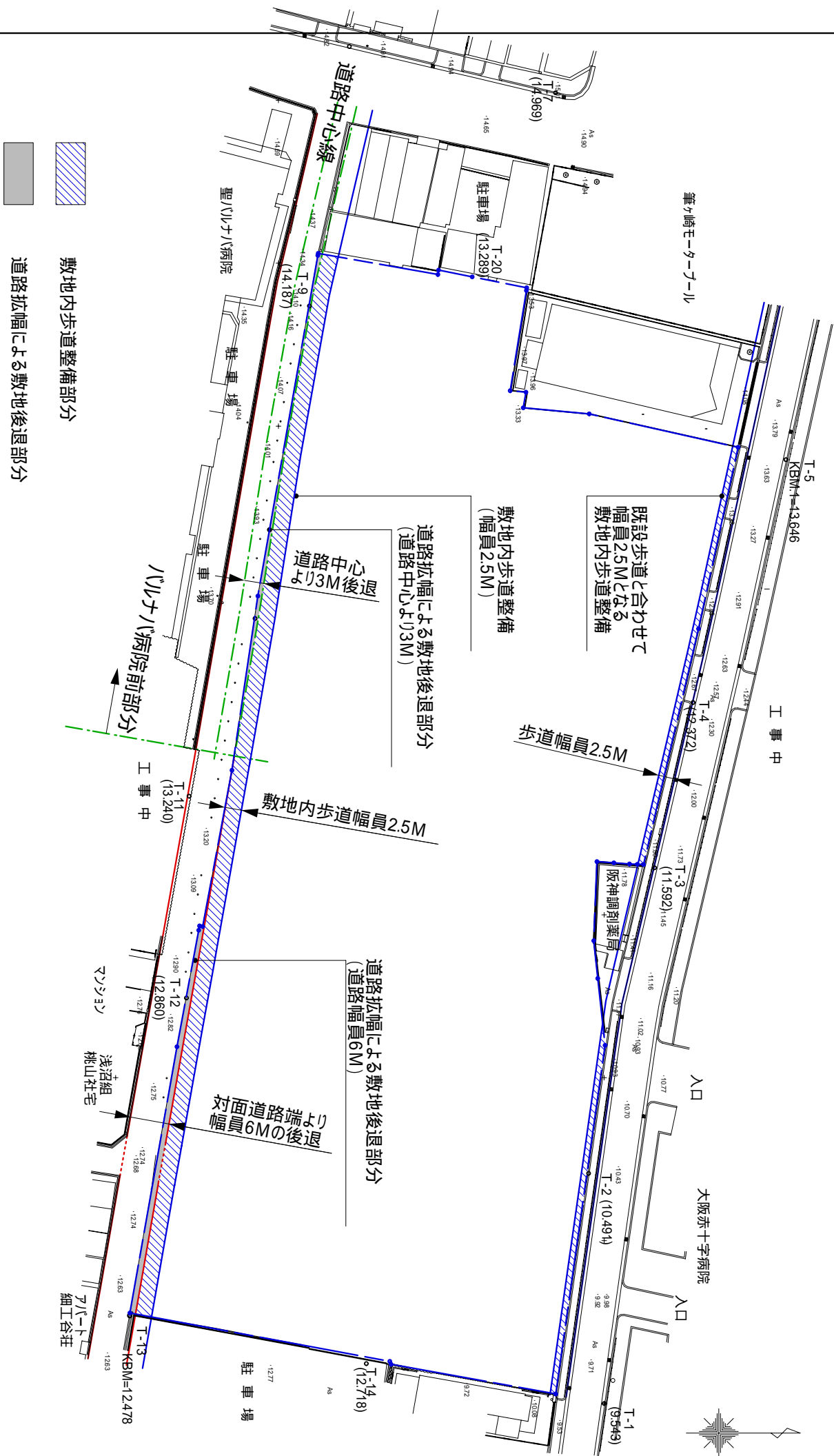
(———) 対面通行

(- - -) 一方通行

(- - -) 一方通行

(- - -) 一方通行





既設歩道と合わせて
幅員2.5Mとなる
敷地内歩道整備

敷地内歩道整備
(幅員2.5M)



道路拡幅による敷地後退部分
(道路中心より3M)

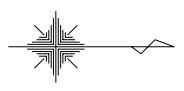
道路中心
より3M後退

敷地内歩道幅員2.5M

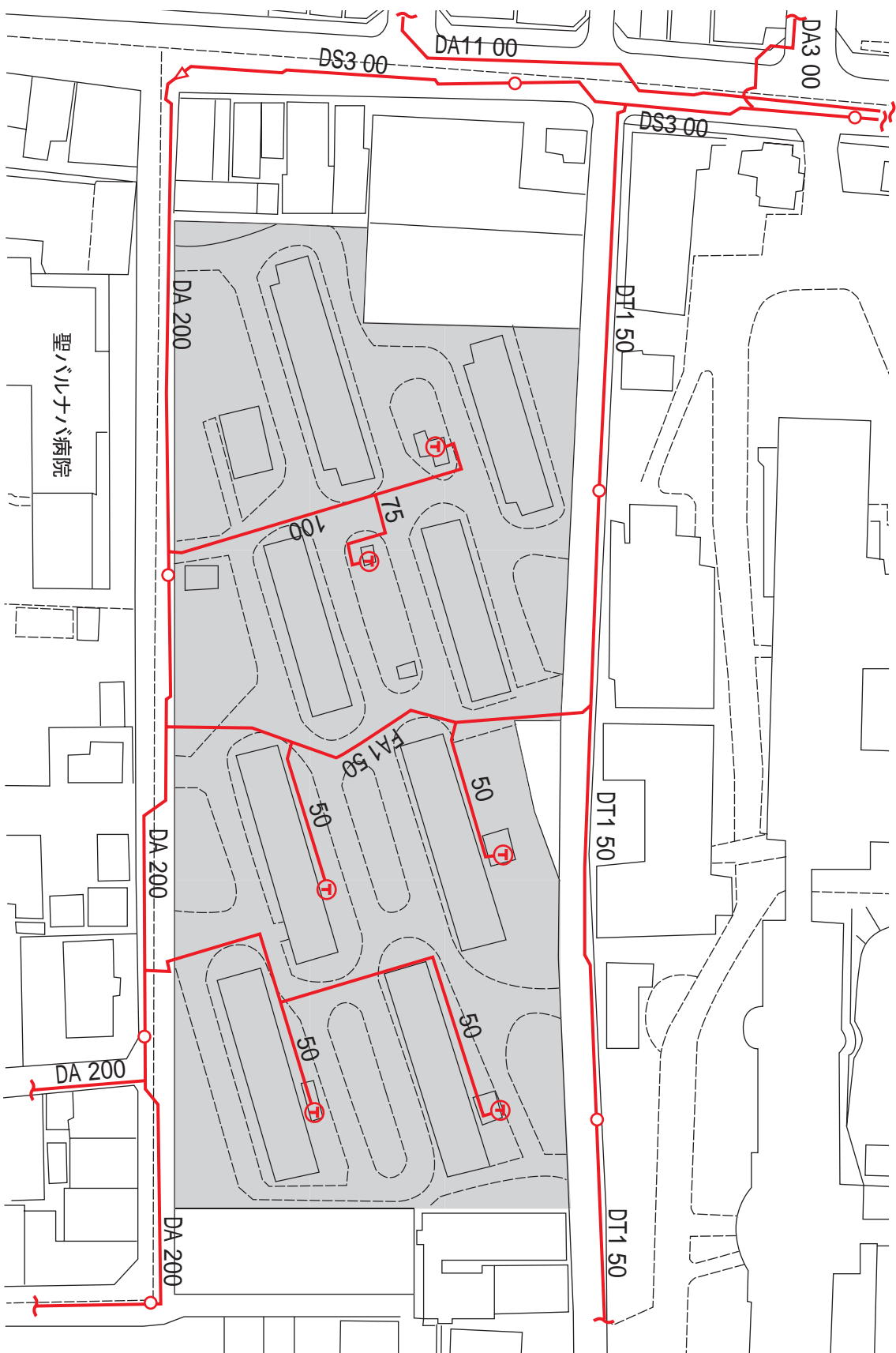
道路拡幅による敷地後退部分
(道路幅員6M)

対面道路端より
幅員6Mの後退

-  敷地内歩道整備部分
-  道路拡幅による敷地後退部分



添付図⑥ 上水道整備状況図



計画地

200 上水管(口径)



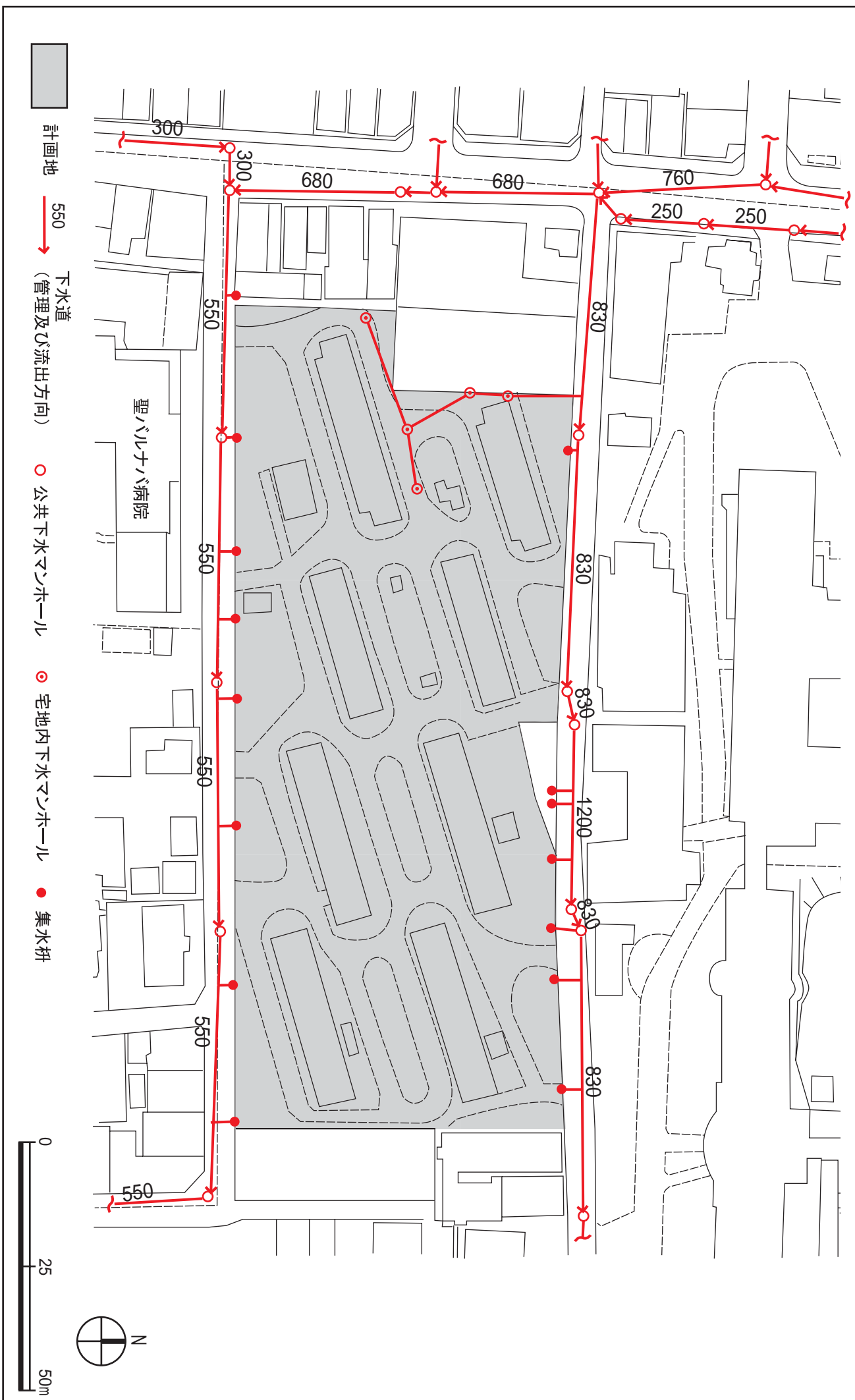
口径変更

○ 消火栓

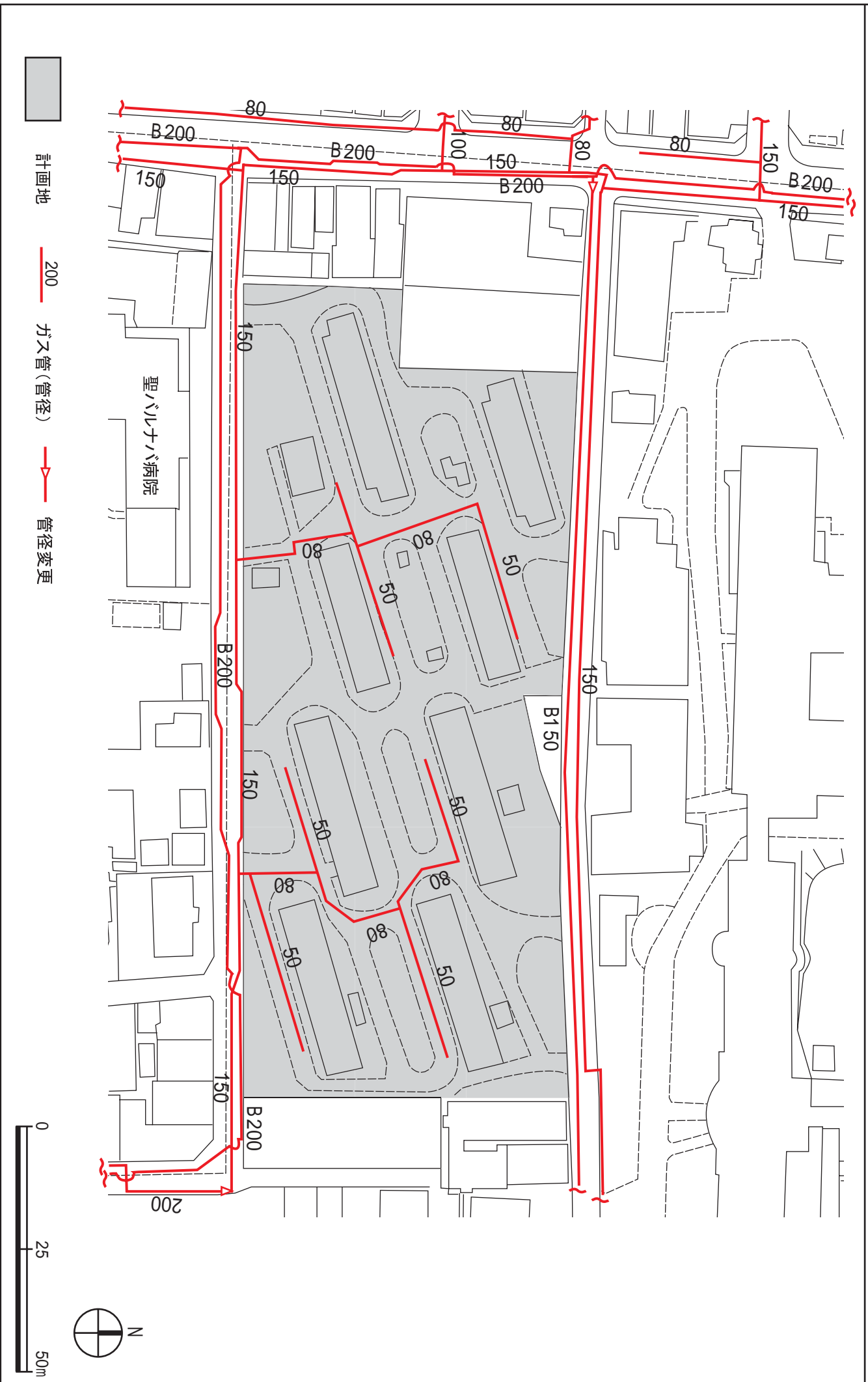
⊕ 受水槽



添付図⑦ 下水道整備状況図

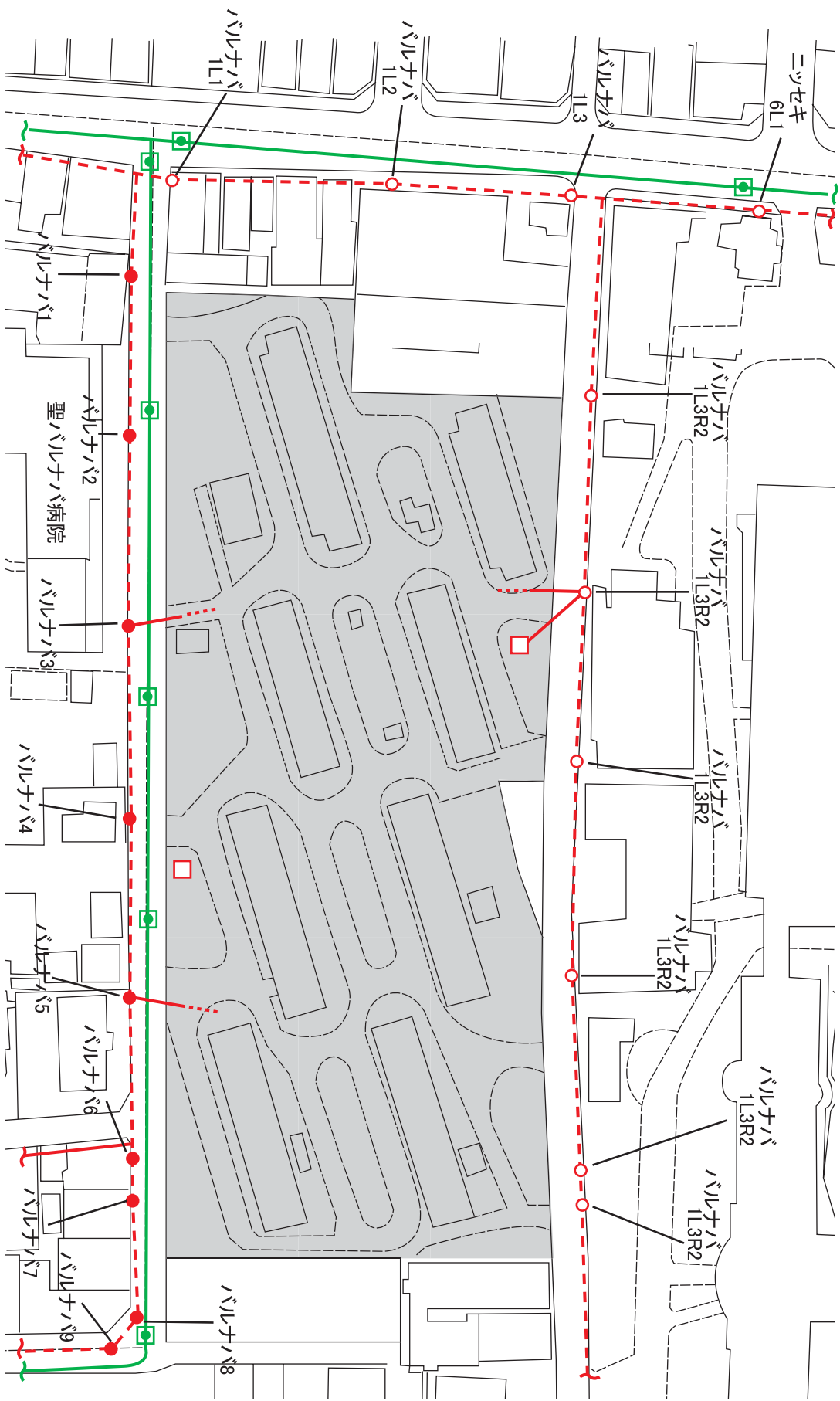


添付図⑧ 都市ガス(大阪ガス)整備状況図



添付図⑨ 電話(NTT)整備状況図

架空線については、現地調査により、現況を確認すること。



計画地

地下ケーブル



マンホール

架空線

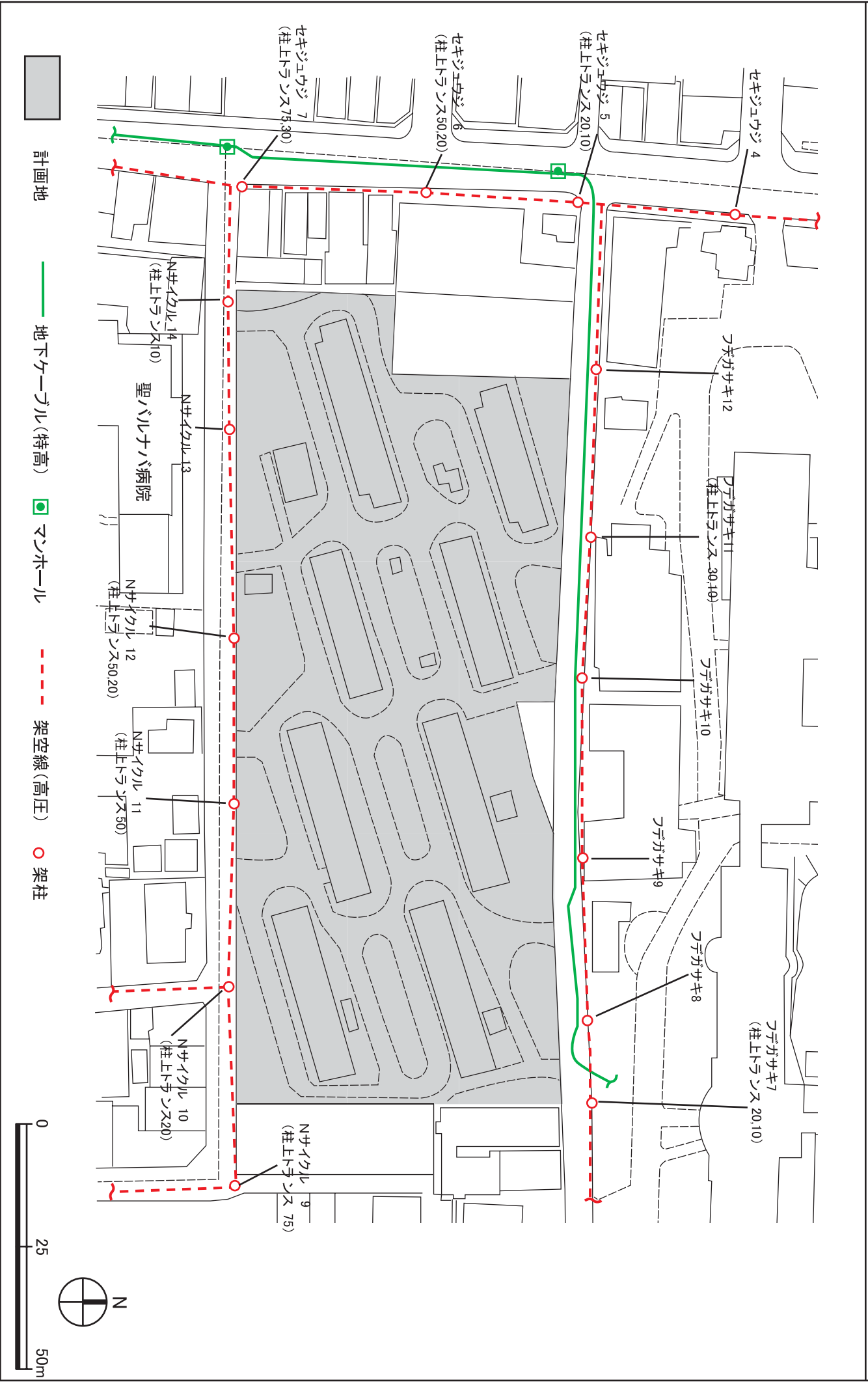
架柱(専用)

架柱(共用)

電話ボックス



添付図⑩ 電気(関西電力)整備状況図



埋蔵文化財試掘調査結果概要

表紙・目次	1/13
1.埋蔵文化財の発掘調査について（通知）	2/13
2.府営筆ヶ崎住宅における細工谷遺跡試掘調査（SD04-2）報告書	4/13

添付図 埋蔵文化財試掘調査結果概要 (-2/13)

1. 埋蔵文化財の発掘調査について (通知)



大市教委第 1012 号
平成 17 年 6 月 20 日

大阪府知事
齊藤 房江 様

大阪市教育委員会
教育長 永田祥



埋蔵文化財の発掘調査について (通知)

標題について、平成16年5月31日付け大市教委第1049-1号で依頼いたしました試掘調査を実施したところ、現地表面1m以深のところ、埋蔵文化財の存在が確認されました。よって、現地表面1m以深の掘削を伴う工事については、記録保存のための本格的な発掘調査が必要ですので、別紙の通り発掘調査を実施されるよう依頼いたします。

発掘調査経費については、文化庁の指導により全額事業者負担となりますので、財団法人大阪市文化財協会と、委託契約を締結して下さるようお願い申し上げます。

なお、記録保存のための発掘調査終了後は、慎重に工事を実施してください。ただし、発掘調査の結果、予期せぬ非常に重要な遺構が検出された場合は、別途本市教育委員会とご協議くださいますようお願い申し上げます。また、工事中に、遺構・遺物等が新たに発見された場合についても、本市教育委員会とご協議くださいますようお願い申し上げます。

問い合わせ先：〒530-8201

大阪市北区中之島1-3-20
大阪市教育委員会文化財保護課
(担当：鈴木)

tel：06-6208-9168

fax：06-6201-5759

記

- 1 遺跡名 難波京朱雀大路跡・細工谷遺跡
- 2 所在地 天王寺区筆ヶ崎町 府営筆ヶ崎住宅
- 3 現場調査期間 別途協議
- 4 調査目的 古代～中世の遺構・遺物の調査
- 5 調査方法 現地表面1 m以深に存在する調査対象面までの盛り土は、重機によって除去する。調査を要する地層に至った後は、各層ごとに人力によって掘削する。現場終了後は、調査内容を整理し、報告書の作成までを行う。

添付図 埋蔵文化財試掘調査結果概要 (-4/13)

2. 府営筆ヶ崎住宅における細工谷遺跡試掘調査 (SD04-2) 報告書

府営筆ヶ崎住宅における
細工谷遺跡試掘調査(SD04-2)報告書

調査箇所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町
調査面積 27m²
調査期間 平成16年8月3日～平成16年8月10日
調査主体 財団法人 大阪市文化財協会
調査担当者 調査課長 田中清美・小田木富慈美

1) 調査に到る経緯と経過

細工谷遺跡は上町台地の東斜面に位置し、難波京の中心部にある。これまでの調査では和同開珎の枝銭や富本銭など鋳造関係の遺物、「百済尼」・「尼寺」と記した墨書土器や瓦など古代の寺院に関する遺物が溝や井戸などの遺構から数多く出土している。これら奈良～平安時代の遺構・遺物の発見から、細工谷遺跡は難波地域のみならず日本の古代史を考えるうえで重要な遺跡と認識されるに至っている[大阪市文化財協会1999]。今回の調査地は遺跡北西の高所にあり、現在は大阪府営筆ヶ崎住宅の敷地となっている(図1)。和同開珎の枝銭の出土等で著名なSD96-1次調査地は、南へ約100mほど下った谷地形の中に当る。調査地の西隣ではNW85-1次調査が行われ、飛鳥時代の掘立柱建物、古代の谷地形・井戸、江戸時代の建物などが検出され、SD96-1次で見つかったものと類似した蓮華文軒平瓦などの古代瓦が出土している[大阪市教育委員会・大阪市文化財協会1987]。また、道路を挟んで南の聖バルナバ病院敷地内ではSD04-1次調査、東の桃山市民病院跡地ではSD01-3・4次調査が行われている。ただし、これらの調査地では地山上面が大きく削平されており、古代以前の遺構を検出することはできなかった。

今回、筆ヶ崎住宅の建替計画に伴い、地層や遺構の分布状況を確認することを主目的として、敷地内を試掘調査することとなった。調査は8月3日に開始した。8月10日までに埋戻しと復旧作業も含めた全ての作業を終了した。試掘は現存住宅内の緑地や駐車場など合計7個所で行った(図2)。便宜上、試掘地点はA～Gトレンチと呼称する。現地表下、地山上面あるいは掘削可能範囲までを重機で掘削し、人力で遺構検出および断面清掃作業を行った。この結果、古代以前と考えられる井戸や谷地形、江戸時代の溝状遺構などが検出され、古墳～江戸時代の遺物が出土した。

なお、本調査で使用した方位は磁北、レベル値は仮ポイントからの比高である。

2) 調査の結果

図3に示すように、調査地の層序は南側の4地点(C～F)では地山上面の地形・現地表ともに基本的に西が高く、東へ向ってなだらかに低くなる。現地表の高さは西端で標高13.8m、東端で12.2mで、



図1 調査地周辺図

添付図 埋蔵文化財試掘調査結果概要 (-7/13)

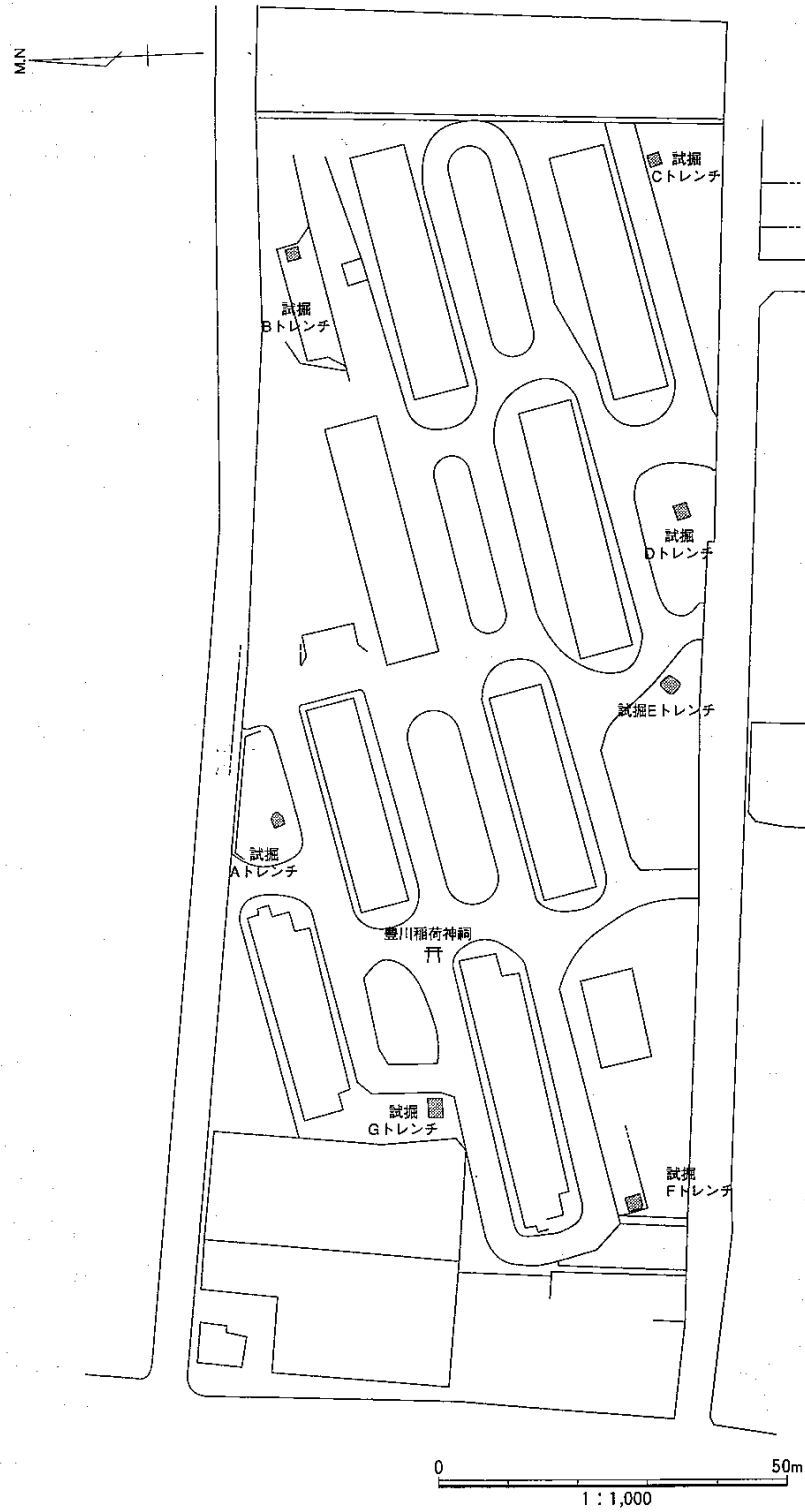


図2 調査区配置図

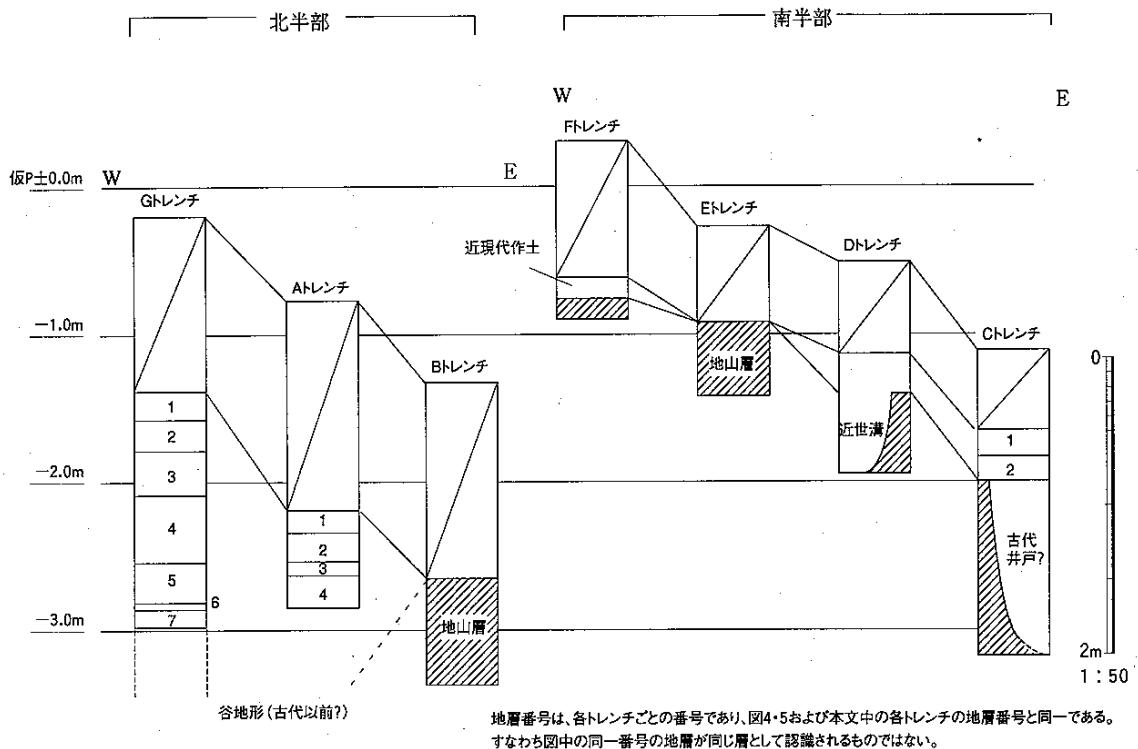


図3 層序模式図(横縮尺は任意)

1.6mの差がある。一方、北側の3地点(G・A・B)では、東端のBトレンチでのみ地山が検出された。地山上面の高さは南東のCトレンチよりも0.7m低い。また、A・Gトレンチでは現地表面はなだらかに東へ向かって下っているが、この下に古代以前の谷地形が存在したと思われる、現地表下3.5mでも地山層は検出されなかった。

以下では各トレンチごとに地層と遺構の特徴について述べる。なお、記述の順は北半部の西から東へ(G→A→B：図4)続いて南半部の西から東(F→E→D→C：図5)とする。

Gトレンチ：現代の盛土が現地表下1.0～1.8mまで認められ、これ以下に古代～中世の遺物を含む1～3層、古代以前の遺物を含む4層以下が堆積する。1～4層は鉄分・マンガンの沈着が著しい。5層は砂と粘土の偽礫からなり、埋戻し土の可能性もある。6・7層にはラミナが認められ、水流のあったことを示す。6層以下は北に向って低く堆積している。調査地の西隣で行われたNW85-1次調査でも調査区の南端で南へ落ちる幅9m以上、深さ2m以上の谷が検出されており、今回の検出例もこれにつながるものと思われる。第4・5層からは奈良時代の須恵器杯Bのほか、古墳時代にさかのぼる須恵器器台片が出土した。このほかに8層からも須恵器・土師器が出土しているが、細片であり時期は不明である。

Aトレンチ：現地表下1.5mまでは現代盛土である。これ以下に1層とした厚さ0.1mの近世作土が堆積し、この下には粘土質の強い第2～4層が堆積している。第2層下面ではピットが認められた。2～4層はGトレンチの谷埋土の上層部分に対応する可能性がある。このトレンチでも地山層は確認できなかった。

添付図 埋蔵文化財試掘調査結果概要 (-9/13)

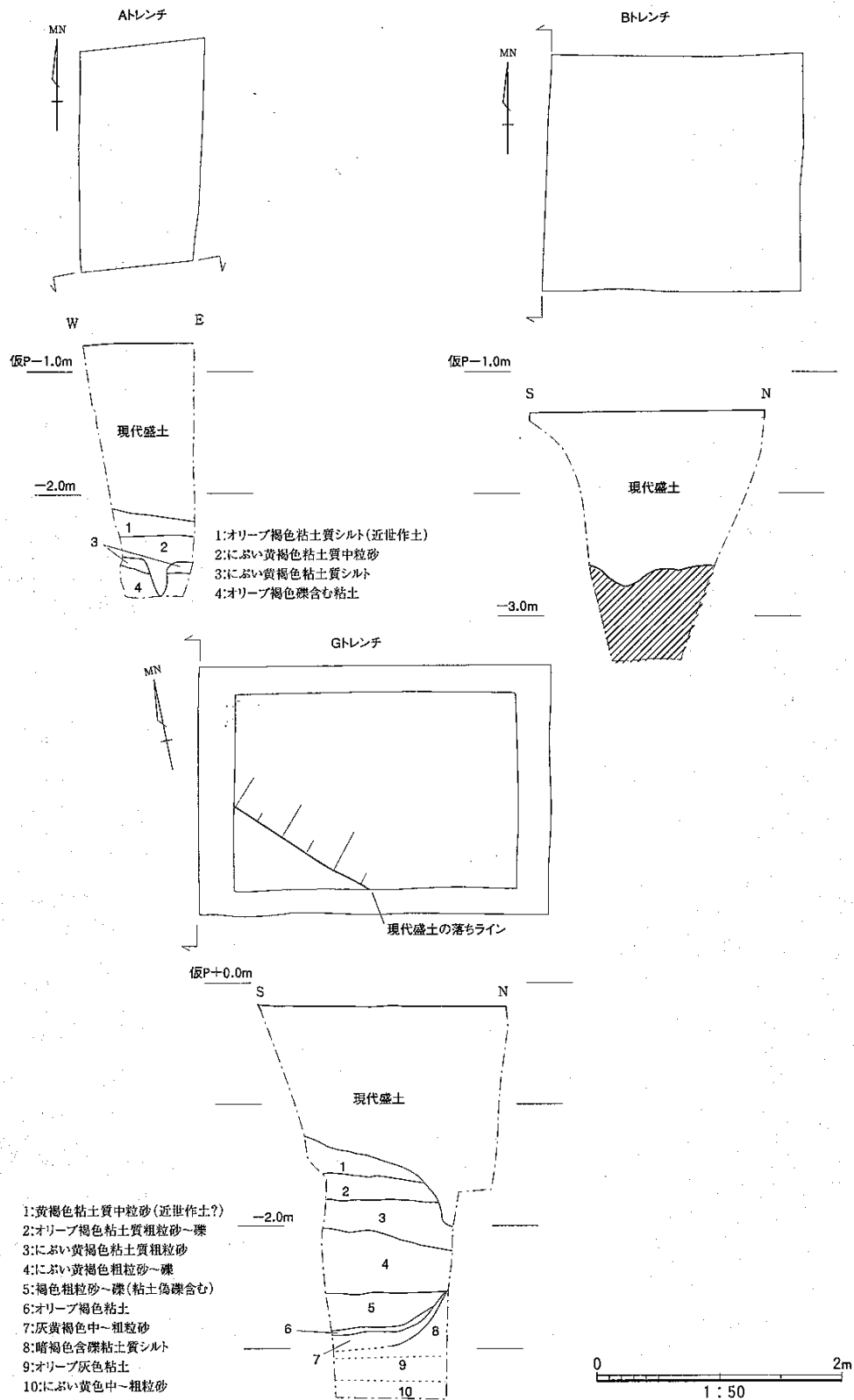


図4 トレンチ平・断面図(北半部)

添付図 埋蔵文化財試掘調査結果概要 (-10/13)

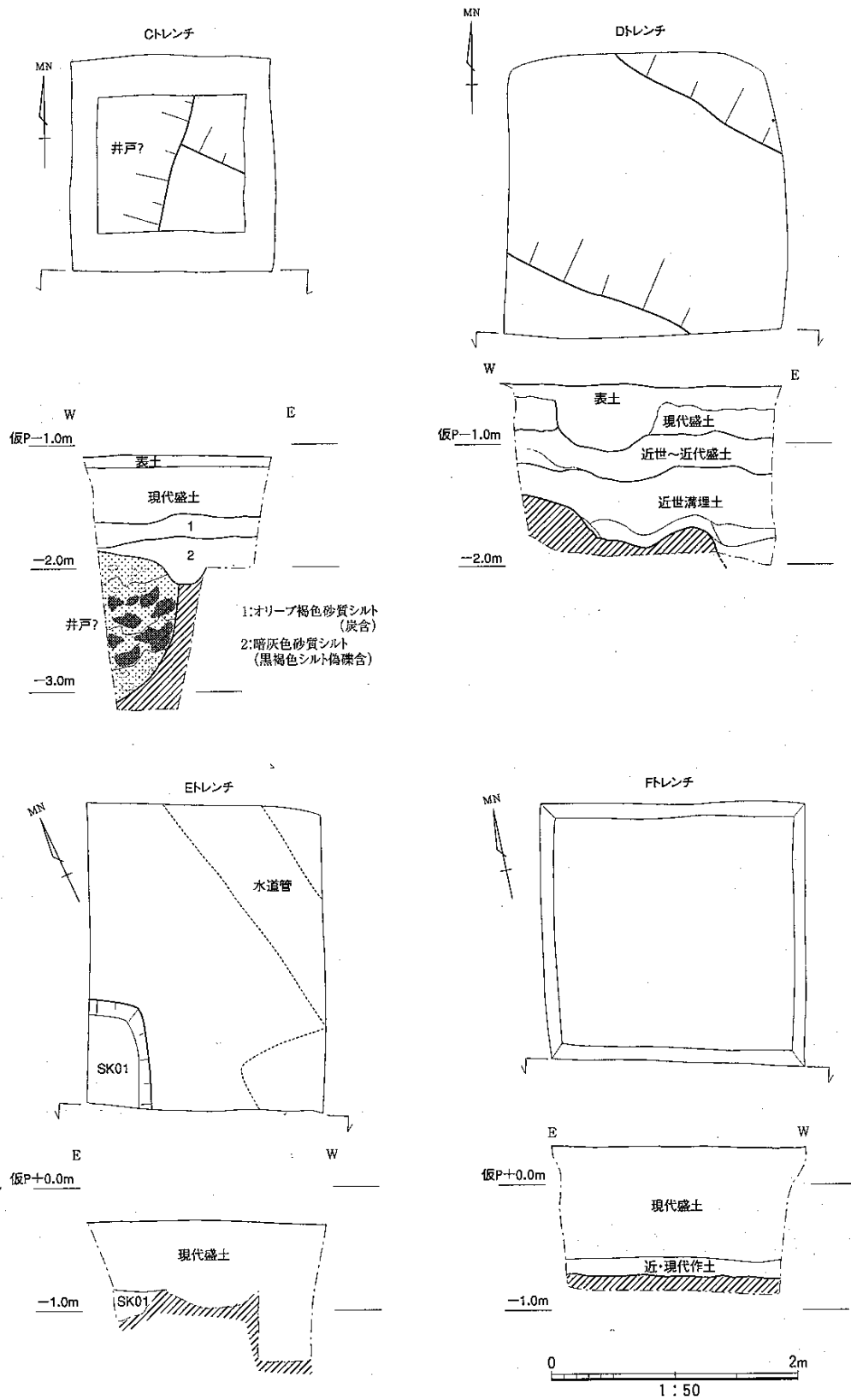


図5 トレンチ平・断面図(南半部)



図6 調査地の立地(明治19年作成『大阪実測図』に一部加筆)

Bトレンチ：現地表下1.3mまで現代盛土層で、以下は明黄褐色粗粒砂～礫の地山層であった。この層にはラミナが顕著で、しまりが悪いことから、地山層である段丘構成層の下部に当る可能性がある。上部は既に削平されているのであろう。

Fトレンチ：現地表下0.9mまでは現代盛土層である。これ以下に厚さ0.1mの近世～現代の作土層が堆積している。現地表下0.9m以下は地山層である。

Eトレンチ：現地表下0.4～0.5mで地山層となり、これより上はすべて現代盛土である。地山上面では須恵器・土師器の小片を含む時期不明の土塊SK01が検出された。規模は南北0.8m×東西0.5m以上、深さ0.3mで、埋土は黄褐色炭泥り中～細粒砂質シルトである。

Dトレンチ：現地表下0.7mまでは近～現代の盛土である。これ以下に近世後半(19世紀)の陶磁器をはじめ瓦器・須恵器・土師器を含む溝状の遺構が認められる。遺構は東西方向と思われるが、その規模は不明である。肩からの深さは0.6m以上である。これ以下は地山層となる。なお、地山層は最も高い部分では、現地表下0.9mで検出された。

Cトレンチ：現地表下0.6～0.7mまでは現代盛土層である。これ以下に炭を含むオリーブ褐色砂質シルトの第1層、黒褐色のシルトの偽礫を含む暗灰色砂質シルトである第2層が認められる。第1・2層はともによくしまっている。第2層下の現地表下0.9mで地山層が検出される。第2層の下面では土塊状の落込みが認められた。地山上面では規模は不明であるが、東西方向の落込みと井戸と思われる落込みが検出された。落込みは西に向って急激に深くなっており深さ1.3mまで掘削したが、完掘はできず、井戸側等の施設は確認できなかった。仮にこれを井戸とすると、試掘場よりも西に中心があると思われる。埋土は地山層の偽礫および、古代の包含層と思われる黒褐色シルトの偽礫を多く含む埋戻し土である。層内からは奈良時代以前と考えられる須恵器・土師器が出土した。なお第1・2層からも須恵器・土師器が出土しているが、いずれも細片のため時期は特定できない。

3)まとめ

以上の調査知見と、周辺の現地形を併せて考えると、以下のような景観が想定できよう。調査地周

添付図 埋蔵文化財試掘調査結果概要 (-12/13)

辺は上町台地が東へ舌状に張出す部分に当っており、北・東・南は谷地形に囲まれている。張出しの北部にはNW85-1次調査と今回の調査で確認された南西～北東方向へ落込む古代以前の谷地形が入込んでいる。明治19年に作成された測量図にはこの谷の名残とみられる池が認められ、NW85-1次調査で確認された近世以降の水溜めはこの池に当ると思われる。さらにこの図によれば、付近の字名は五合谷とある(図6)。これらから想定される谷のラインを図6に示した。この谷部分以外では調査地は南西から北東方向へ緩やかに低くなる地形であったと思われる。谷の周辺では遺構や遺物が良好な状態で残存している可能性が高い。なお、調査地の北西側は現状では一段低くなっているが、道路などの造成によって地山面が大きく削られている可能性がある。

一方で、周辺の調査成果や地形の検討によって、調査地付近には百済王氏の氏寺である「百済尼寺」の存在が想定されている[大阪市文化財協会1999・藤澤一夫1999]。「百済尼寺」とされる尼寺は堂ヶ芝廃寺と想定される百済寺と並んで7世紀後半に設立され、9世紀前半までは存在した。今回の調査で直接寺院に関わる遺構は検出されなかったが、古代にさかのぼる可能性のある井戸や谷地形の確認によって、寺域を推察するうえで重要な手がかりを提示することができたといえよう。

参考文献

大阪市文化財協会1999『細工谷遺跡発掘調査報告』I

大阪市教育委員会・大阪市文化財協会1987「筆ヶ崎マンション建設工事に伴う難波京朱雀大路発掘調査(NW85-1)」:『昭和60年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書』pp.50-57

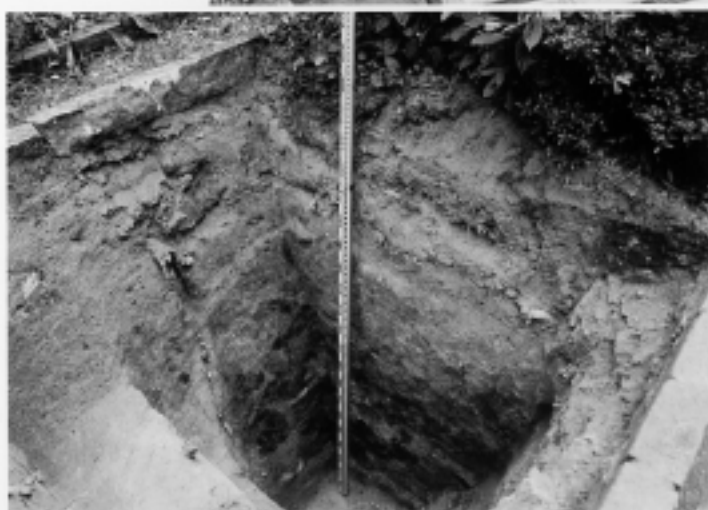
藤澤一夫1999「難波鑄銭司及百済尼寺跡考～細工谷遺跡の観察から～」:『大阪の歴史と文化財』第2号、大阪市教育委員会pp.43-53

添付図 埋蔵文化財試掘調査結果概要 (-13/13)

Gトレンチ
谷地形検出状況
(東から)



Cトレンチ
井戸状遺構検出状況
(北東から)



Dトレンチ
遺構検出状況
(近世の溝?)
(東から)



土地履歴調査結果概要

表紙・目次	1/5
1.調査結果概要	2/5
2.調査項目別概要(土地利用変遷調査)	3/5
3.調査項目別概要(現地視察調査)	4/5
4.調査項目別概要(地形・地質概要調査)	5/5

1において調査対象地の土地履歴調査の調査結果概要を示す。
以下2～4において、調査項目別の調査結果概要を示している。
尚、登記簿等による調査については、公表しないものとする。

調査の対象地は、以下とする。

調査対象地：大阪市天王寺区筆ヶ崎町

添付図 土地履歴調査結果概要 (-2/5)

1. 調査結果概要

調査対象地の土地履歴調査結果概要を以下の表に示す。

調査項目	まとめ
登記簿等による地歴調査	調査対象地は、明治時代から現在に至るまで畑や公衆用道路、井溝や居宅用の宅地として利用されていることが確認された。 以上より、有害物質を取り扱う工場等の履歴がないため、調査対象地における汚染の可能性はないものと判断する。
土地利用変遷調査	土地利用状況は、大正時代から昭和30年頃まで住居用の宅地として利用され、以降は住居用の共同住宅として利用されている。 以上より、有害物質を取り扱う工場等は確認されなかったため、調査対象地における土壌汚染の可能性はないものと判断する。
現地視察調査	現在の調査対象地は府営筆ヶ崎住宅(8棟)として利用されている。対象地周辺では、大阪赤十字病院や聖バルナバ病院、個人宅、共同住宅に囲まれているが、調査対象地内には有害物質を取り扱う工場等も確認されず、土壌汚染を引き起こすような土地利用は行っていない。 以上より、調査対象地における土壌汚染の可能性はないものと判断する。
地形・地質概要調査	調査対象地の地形は段丘(中・低位)となっている。表層地質は大阪南部に分布している礫となっている。地形図や表層地質図から判読すると、土壌を埋め立てた経緯もない。 以上より、調査対象地における土壌汚染の可能性はないものと判断する。

評価	登記簿等による地歴調査、土地利用変遷調査、現地視察調査、地形・地質概要調査による調査結果では、土壌汚染の可能性はないものと考えられる。 なお、土地の改変時において、外観、臭気等により土壌に異常が見られる場合には、その場所を調査し、汚染が認められるときには、汚染土壌の拡散防止の措置を講じる必要がある。
----	---

根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公図の写し ・ 全部事項証明書(土地) ・ 閉鎖謄本(土地) ・ 旧土地台帳 ・ 地形図 ・ 空中写真 ・ 住宅地図
------	--

添付図 土地履歴調査結果概要 (-3/5)

2. 調査項目別概要 (土地利用変遷調査)

調査対象地及び周辺の地形図、住宅地図及び空中写真の資料を収集し、土地利用変遷調査を実施した。調査対象地及び周辺の土地利用履歴を以下の表に示す。

年代	調査対象地の土地利用状況	調査対象地における 土壌汚染の可能性	根拠資料
~1948年 (昭和23年)	調査対象地は、建築物が確認される。	土壌汚染の可能性は考えにくい。	地形図(1) 1925年(大正14年) 2万5千分の1旧版図参照 地形図(2) 1929年(昭和4年) 2万5千分の1旧版図参照 地形図(3) 1947年(昭和22年) 2万5千分の1旧版図参照 空中写真(1) 1948年(昭和23年) (財)日本地図センター発行M84-1-96参照
~1964年 (昭和39年)	調査対象地は、府営筆ヶ崎住宅が確認される。 対象地周辺には、大阪赤十字病院、市立桃山病院、個人宅、聖バルナバ病院が確認される。	土壌汚染の可能性は考えにくい。	地形図(4) 1955年(昭和30年) 2万5千分の1旧版図参照 住宅地図(1) 1961年(昭和35年) 大阪市全商工住宅案内図帳 住宅地図(2) 1963年(昭和38年) 大阪市全商工住宅案内図帳 空中写真(2) 1964年(昭和39年) (財)日本地図センター発行KK-64-3X C7-6参照
~1976年 (昭和51年)	調査対象地は、府営筆ヶ崎住宅が確認される。 対象地周辺には、大阪赤十字病院、個人宅、聖バルナバ病院が確認される。 1955年(昭和30年)から1974年(昭和49年)まで、調査対象地の土地利用状況に大きな変化はない。	土壌汚染の可能性は考えにくい。	地形図(5) 1969年(昭和44年) 2万5千分の1旧版図参照 住宅地図(3) 1970年(昭和45年) 大阪市全商工住宅案内図帳 空中写真(3) 1974年(昭和49年) (財)日本地図センター発行CKK-74-8 C17-20参照
~1989年 (平成元年)	調査対象地は、府営筆ヶ崎住宅が確認される。 対象地周辺には、大阪赤十字病院、個人宅、聖バルナバ病院が確認される。 1974年(昭和49年)から1988年(昭和63年)まで、調査対象地の土地利用状況に大きな変化はない。	土壌汚染の可能性は考えにくい。	地形図(6) 1980年(昭和55年) 2万5千分の1旧版図参照 住宅地図(4) 1983年(昭和58年) 精密住宅地図 大阪市天王寺区 空中写真(4) 1984年(昭和59年) (財)日本地図センター発行KK-84-3X C9-10参照 地形図(7) 1988年(昭和63年) 2万5千分の1旧版図参照 住宅地図(5) 1988年(昭和63年) 精密住宅地図 大阪市天王寺区
1990年 (平成2年) 以降	調査対象地は、府営筆ヶ崎住宅が確認される。 1990年以降、調査対象地の土地利用状況に大きな変化はない。	土壌汚染の可能性は考えにくい。	空中写真(5) 1994年(平成6年) (財)日本地図センター発行CKK-94-1X C6-27参照 住宅地図(6) 1994年(平成6年) 精密住宅地図 大阪市天王寺区 空中写真(6) 2004年(平成16年) (財)日本地図センター発行KK-2004-2X C1-7参照 住宅地図(7) 2004年(平成16年) 精密住宅地図 大阪市天王寺区

添付図 土地履歴調査結果概要 (-4/5)

3. 調査項目別概要 (現地視察調査)

現地視察調査の結果は以下のとおり。

現在の土地利用状況

調査対象地は、府営筆ヶ崎住宅(8棟)となっている。

現在も住宅は居住者による使用が続けられており、土壤汚染を引き起こすような土地利用は行っていない。

周辺の土地利用状況

調査対象地は、第二種住居地域に指定されていることもあり、調査対象地の周囲は病院や個人宅、共同住宅などが存在する。

その他周辺の主要な施設としては、対象地北側に大阪赤十字病院、その北側に東西方向に走るJR環状線、北東にはJR鶴橋駅、南側には道路を挟んで聖バルナバ病院がある。



調査対象地南西方向



調査対象地北西方向



調査対象地南西方向



調査対象地北方向

現在の土地利用状況

添付図 土地履歴調査結果概要 (-5/5)

4. 調査項目別概要 (地形・地質概要調査)

地形・地質調査の結果概要を以下に示す。

地形

調査対象地周辺の地形に関する資料を収集し、地形の状況を調査した。地形分類図を下図1に示す。

調査対象地の地形は丘陵地・台地・段丘地にあたり対象地は段丘(中・低位)に位置する。

地質

調査対象地周辺の地質に関する資料を収集し、地質の状況を調査した。調査対象地を下図2に示す。

調査対象地の表層地質は、大阪府南部、北摂山麓、生駒西麓に分布する段丘礫からなっている。対象地は大阪市街地でもあり、天満層と呼ばれる支持層を作るものと見られる。



図1 地形分類図 (出典「土地分類図(大阪府)1976年」(財)日本地図センター)

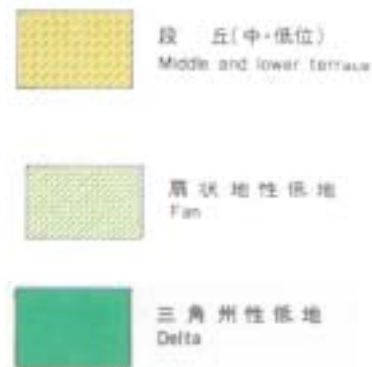
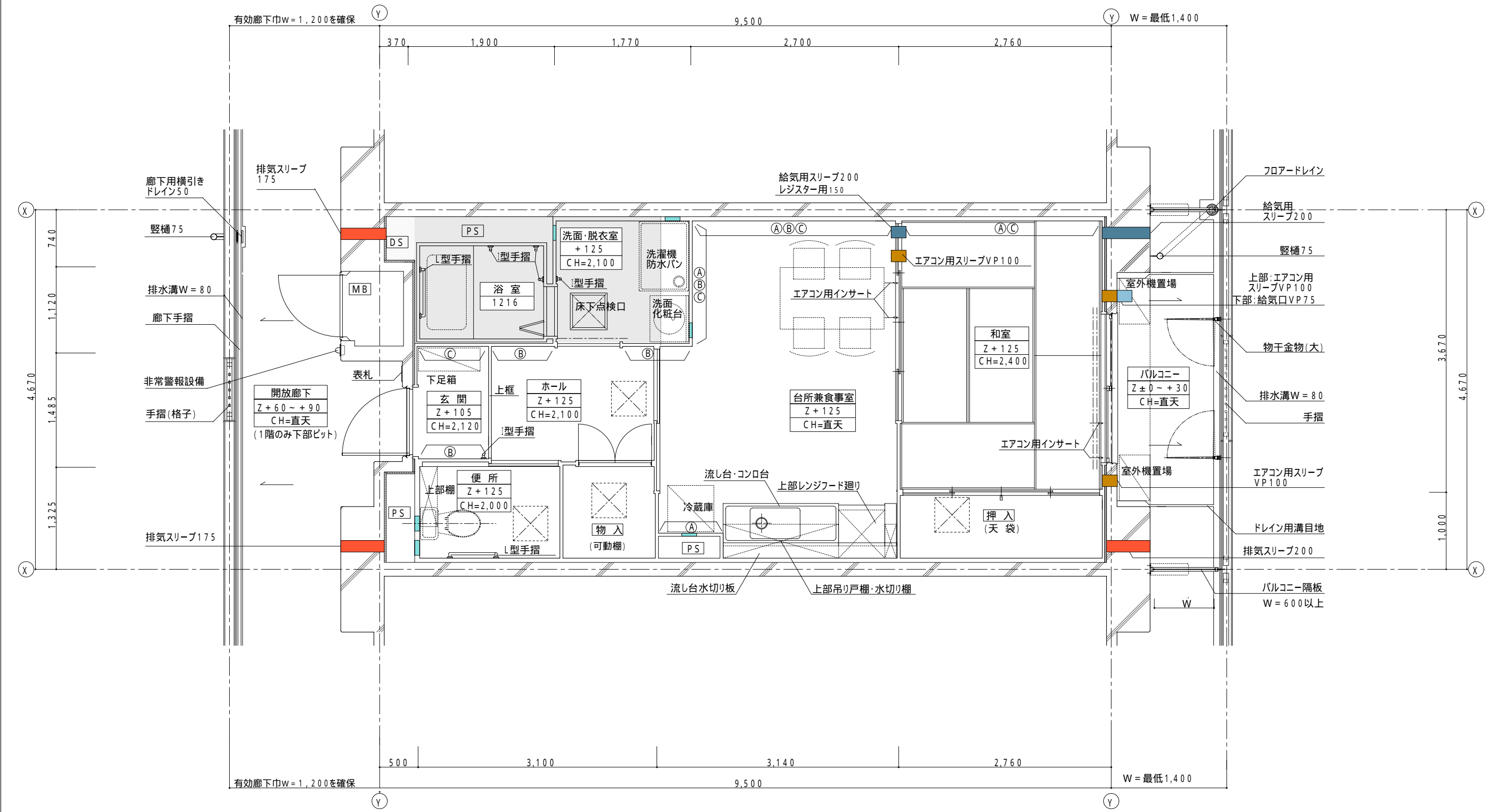


図2 表層地質図 (出典「土地分類図(大阪府)1976年」(財)日本地図センター)



添付図 標準平面詳細図(1DK)

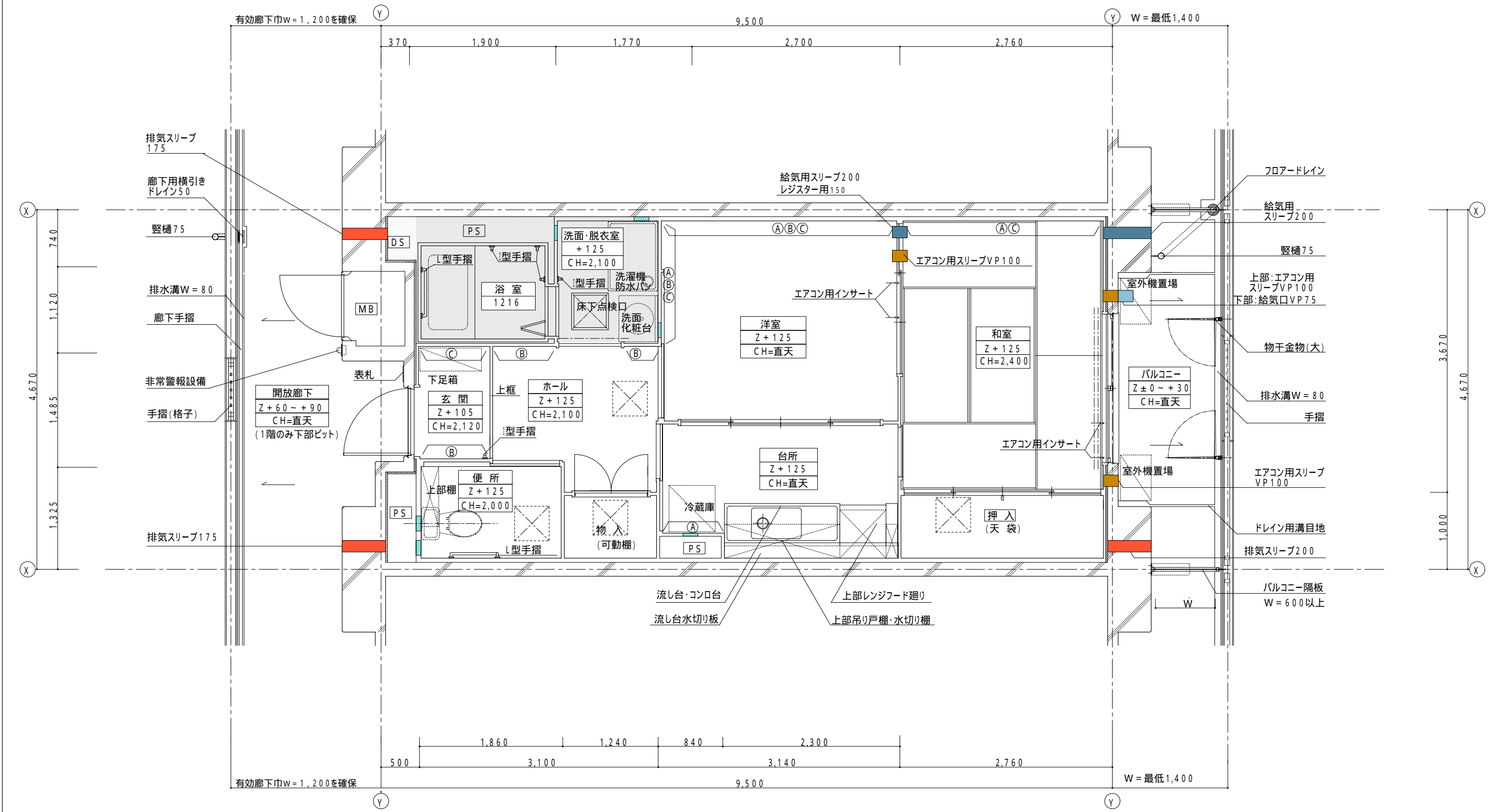
この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



凡例	<table border="1"> <tr><th>室名</th></tr> <tr><td>床高さ(FL)</td></tr> <tr><td>天井高さ</td></tr> </table> <p>*Zは各階の スラブ天端とする。</p>	室名	床高さ(FL)	天井高さ	<ul style="list-style-type: none"> 排気スリーブ 給気口 給気スリーブ(ダクト有り) エアコン用スリーブ 部分はスラブ天Z+60 部分はスラブ天SL-280 断熱材 点検口 天井点検口 	<ul style="list-style-type: none"> (A) 転倒防止付鴨居 (B) 将来手摺下地補強 (C) 腰高家具等転落防止金具取付下地補強 カーテンレール(S) カーテンレール(W) 	<p>特記事項</p> <p>1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JIS A 9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。</p>
	室名						
床高さ(FL)							
天井高さ							

添付図 標準平面詳細図(2K)

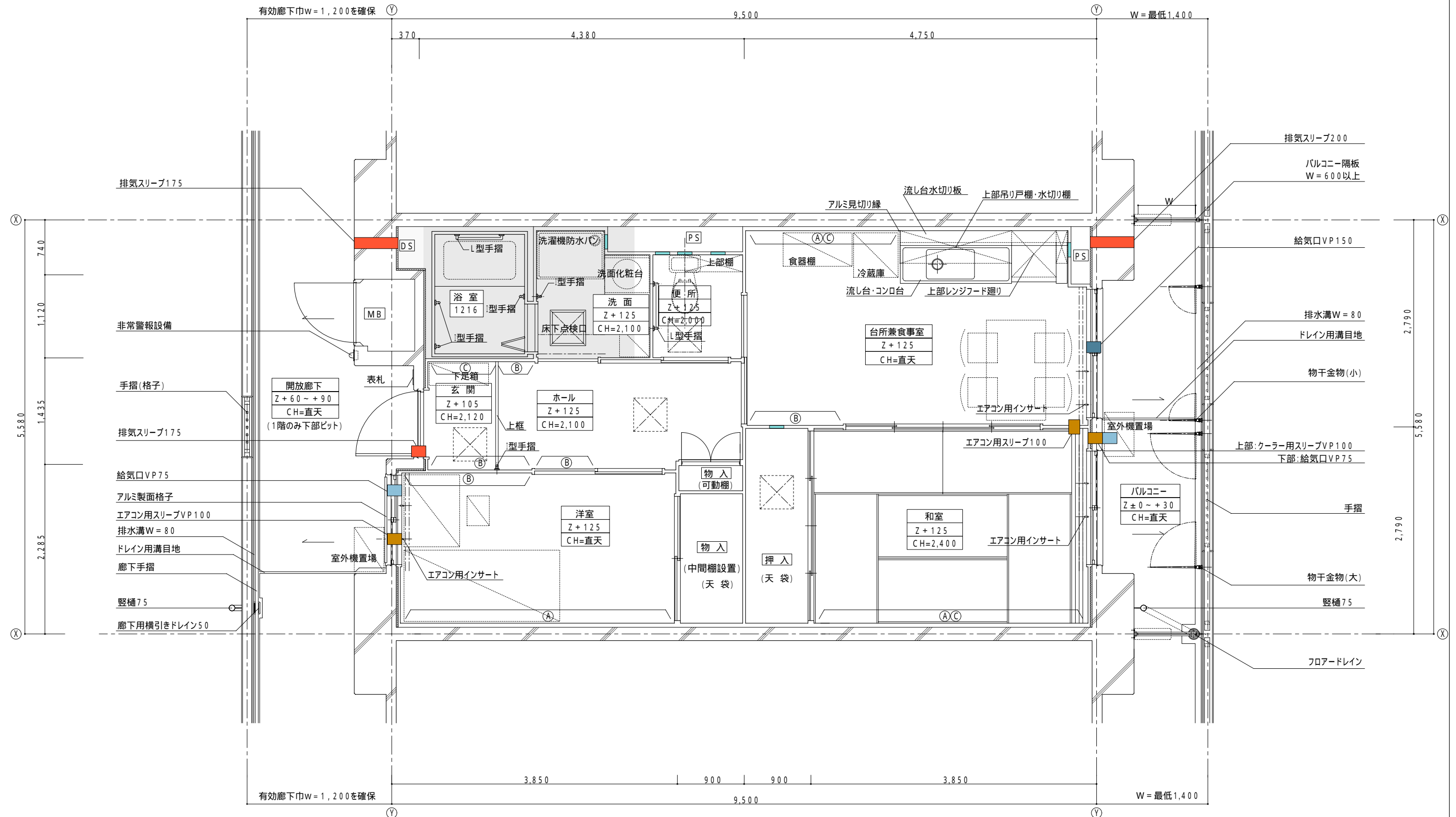
この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



凡例	<table border="1"> <tr><th>室名</th></tr> <tr><td>床高さ(F.L)</td></tr> <tr><td>天井高さ</td></tr> </table> <p>*Zは各階の スラブ天端とする。</p>	室名	床高さ(F.L)	天井高さ	<p>■ 排気スリーブ</p> <p>■ 給気口</p> <p>■ 給気スリーブ(ダクト有り)</p> <p>■ エアコン用スリーブ</p>	<p>□ 部分はスラブ天Z+60</p> <p>□ 部分はスラブ天SL-280</p> <p>— 断熱材</p>	<p>■ 点検口</p> <p>□ 天井点検口</p>	<p>(A) 転倒防止付鴨居</p> <p>(B) 将来手摺下地補強</p> <p>(C) 腰高家具等転落防止金具取付下地補強</p> <p>--- カーテンレール(S)</p> <p>=== カーテンレール(W)</p>	特記事項
	室名								
床高さ(F.L)									
天井高さ									
<p>1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JIS A 9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。</p>									

添付図 標準平面詳細図(2DK)

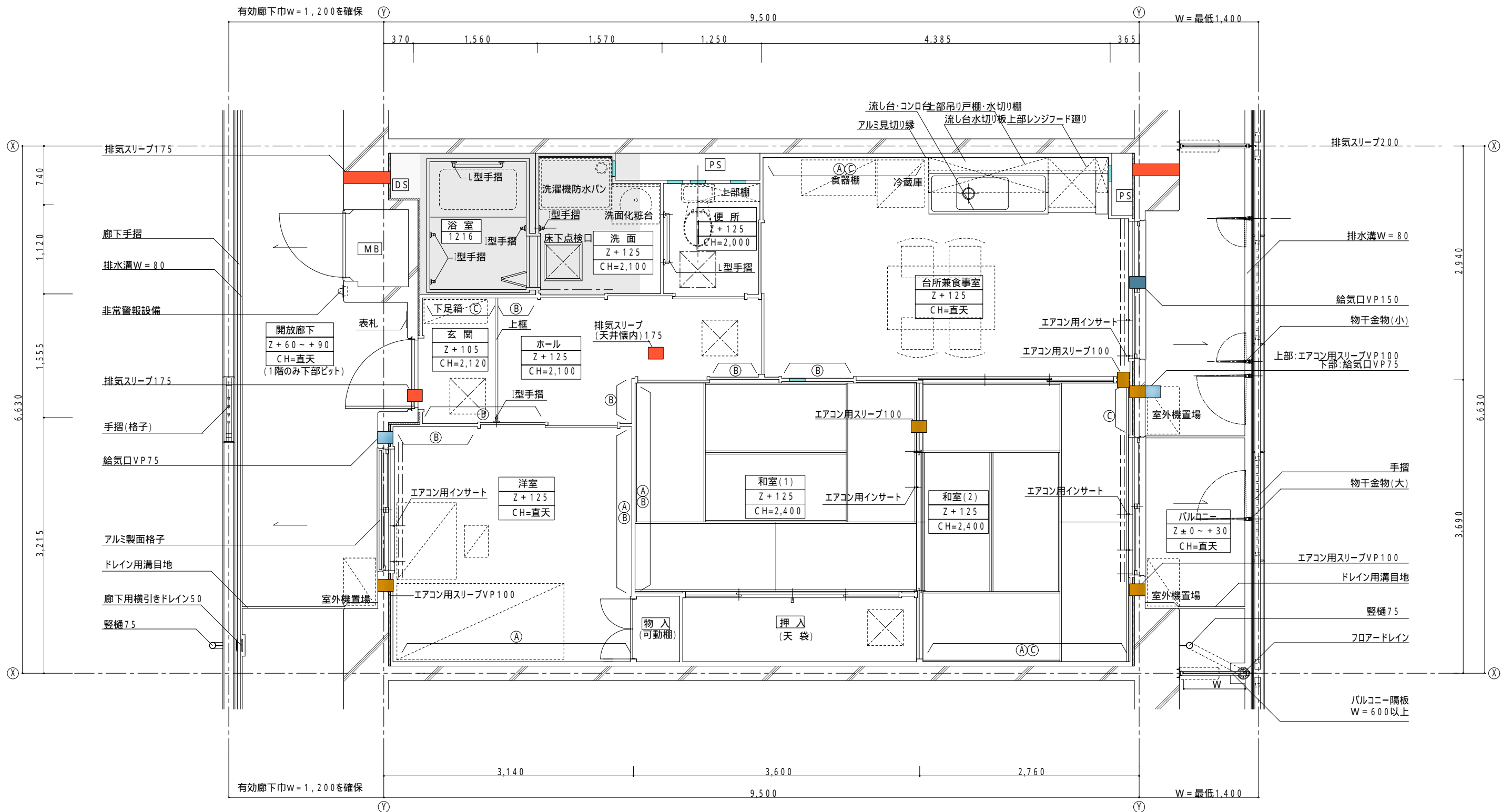
この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



凡例	<table border="1"> <tr><th>室名</th></tr> <tr><td>床高さ(FL)</td></tr> <tr><td>天井高さ</td></tr> </table> <p>*Zは各階の スラブ天端とする。</p>	室名	床高さ(FL)	天井高さ	<p>■ 排気スリーブ</p> <p>■ 給気口</p> <p>■ 給気スリーブ(ダクト有り)</p> <p>■ エアコン用スリーブ</p>	<p>□ 部分はスラブ天Z+60</p> <p>□ 部分はスラブ天SL-280</p> <p>— 断熱材</p> <p>■ 点検口</p> <p>□ 天井点検口</p>	<p>(A) 転倒防止付鴨居</p> <p>(B) 将来手摺下地補強</p> <p>(C) 腰高家具等転落防止金具取付用下地補強</p> <p>--- カーテンレール(S)</p> <p>=== カーテンレール(W)</p>	特記事項
	室名							
床高さ(FL)								
天井高さ								
				<p>1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JIS A9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。</p>				

添付図 標準平面詳細図(3DK)

この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



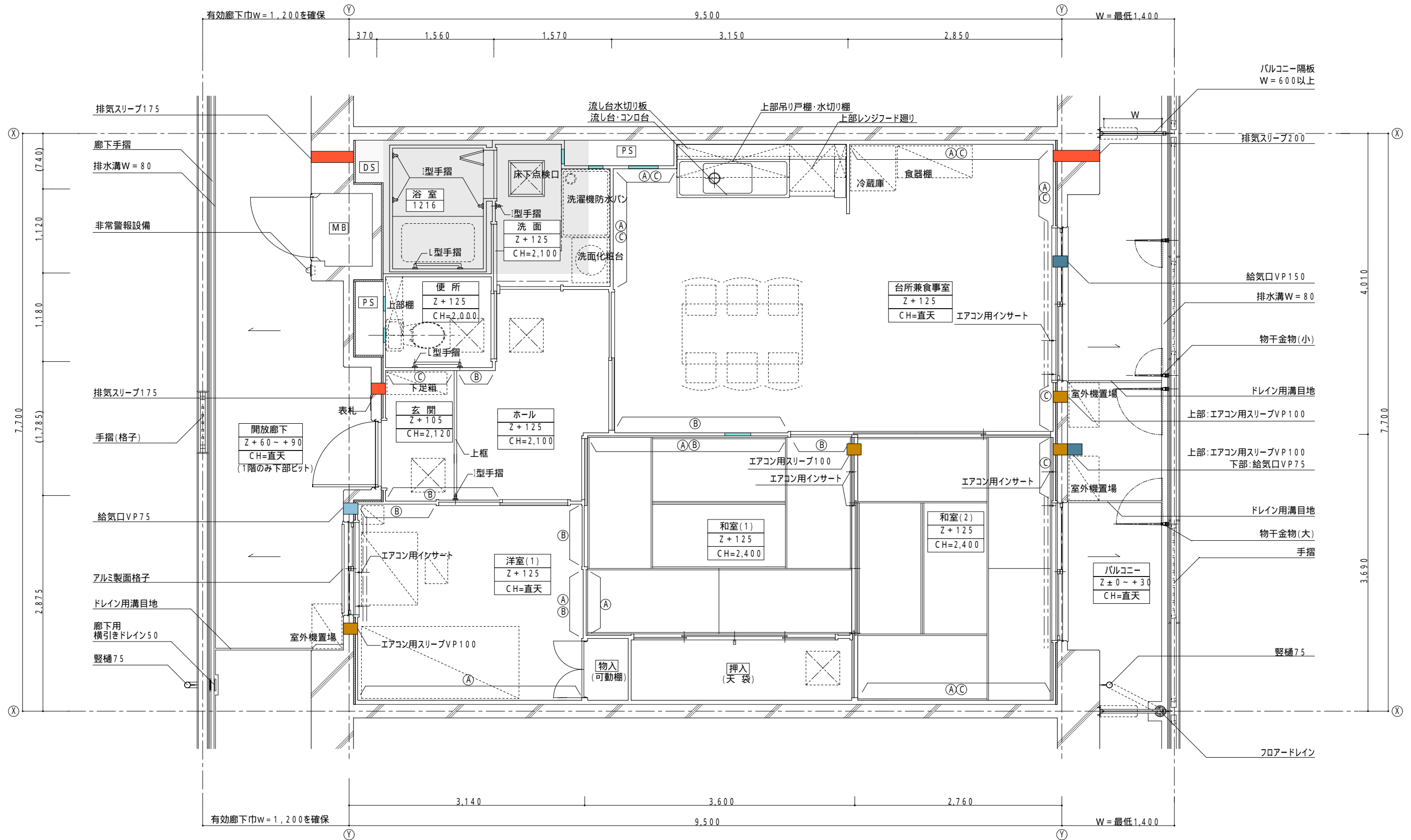
凡例	<table border="1"> <tr><th>室名</th></tr> <tr><td>床高さ(FL)</td></tr> <tr><td>天井高さ</td></tr> </table> <p>*Zは各階の スラブ天端とする。</p>	室名	床高さ(FL)	天井高さ	<p>■ 排気スリーブ</p> <p>■ 給気口</p> <p>■ 給気スリーブ(ダクト有り)</p> <p>■ エアコン用スリーブ</p>	<p>□ 部分はスラブ天Z+60</p> <p>□ 部分はスラブ天SL-280</p> <p>— 断熱材</p> <p>■ 点検口</p> <p>□ 天井点検口</p>	<p>(A) 転倒防止付鴨居</p> <p>(B) 将来手摺下地補強</p> <p>(C) 腰高家具等転落防止金具取付下地補強</p> <p>--- カーテンレール(S)</p> <p>=== カーテンレール(W)</p>
	室名						
床高さ(FL)							
天井高さ							

特記事項

1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JIS A9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。

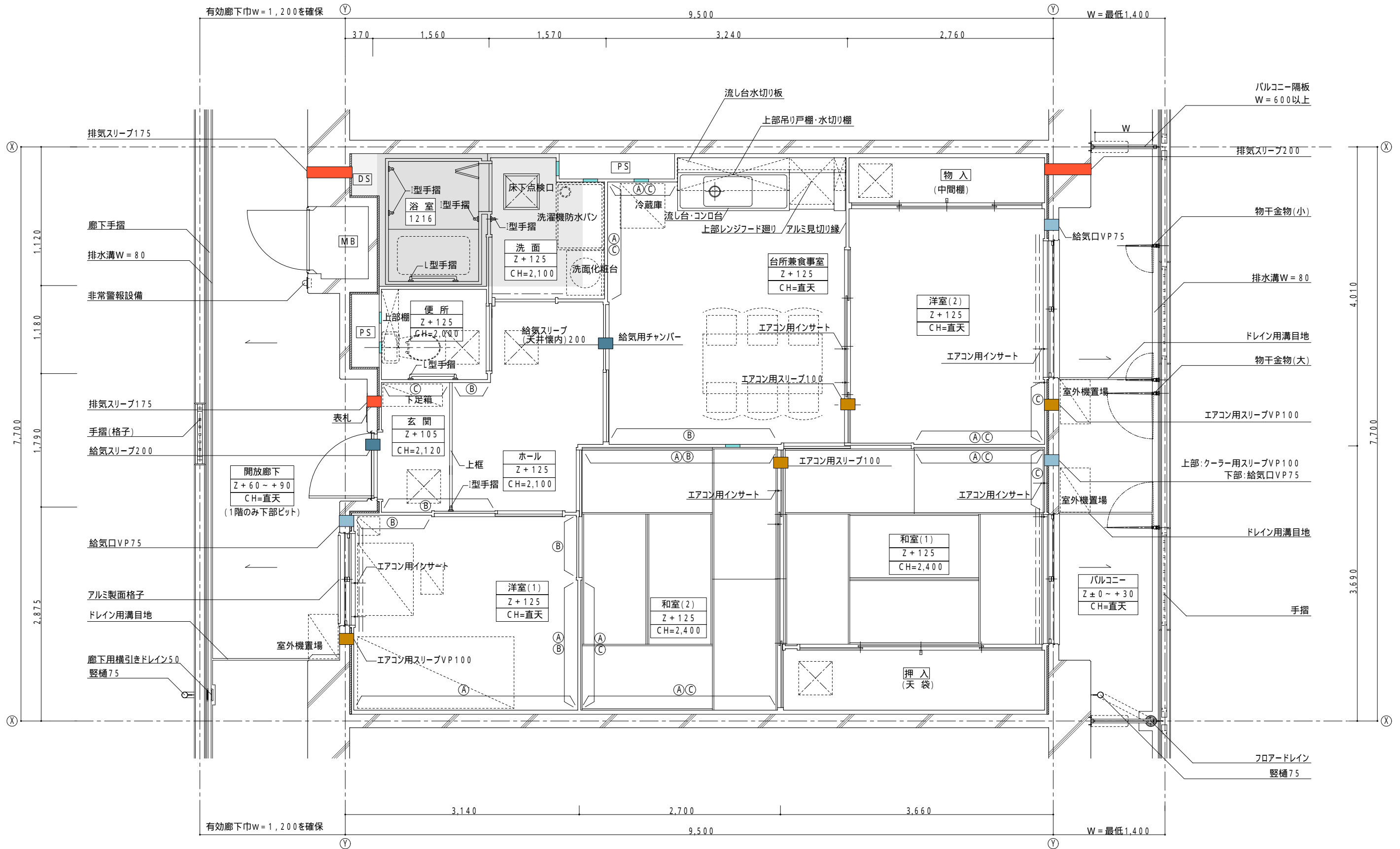
添付図 標準平面詳細図(3LDK)

この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



凡例	<table border="1"> <tr><th>室名</th></tr> <tr><td>床高さ(FL)</td></tr> <tr><td>天井高さ</td></tr> </table> <p>*Zは各階の スラブ天端とする。</p>	室名	床高さ(FL)	天井高さ	<ul style="list-style-type: none"> 排気スリーブ 給気口 給気スリーブ(ダクト有り) エアコン用スリーブ 	<ul style="list-style-type: none"> 部分はスラブ天Z+60 部分はスラブ天SL-280 断熱材 	<ul style="list-style-type: none"> 点検口 天井点検口 	<ul style="list-style-type: none"> (A) 転倒防止付鴨居 (B) 将来手摺下地補強 (C) 腰高家具等転落防止金具取付下地補強 	特記事項
	室名								
床高さ(FL)									
天井高さ									
<ul style="list-style-type: none"> --- カーテンレール(S) === カーテンレール(W) 	<p>1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JIS A 9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。</p>								

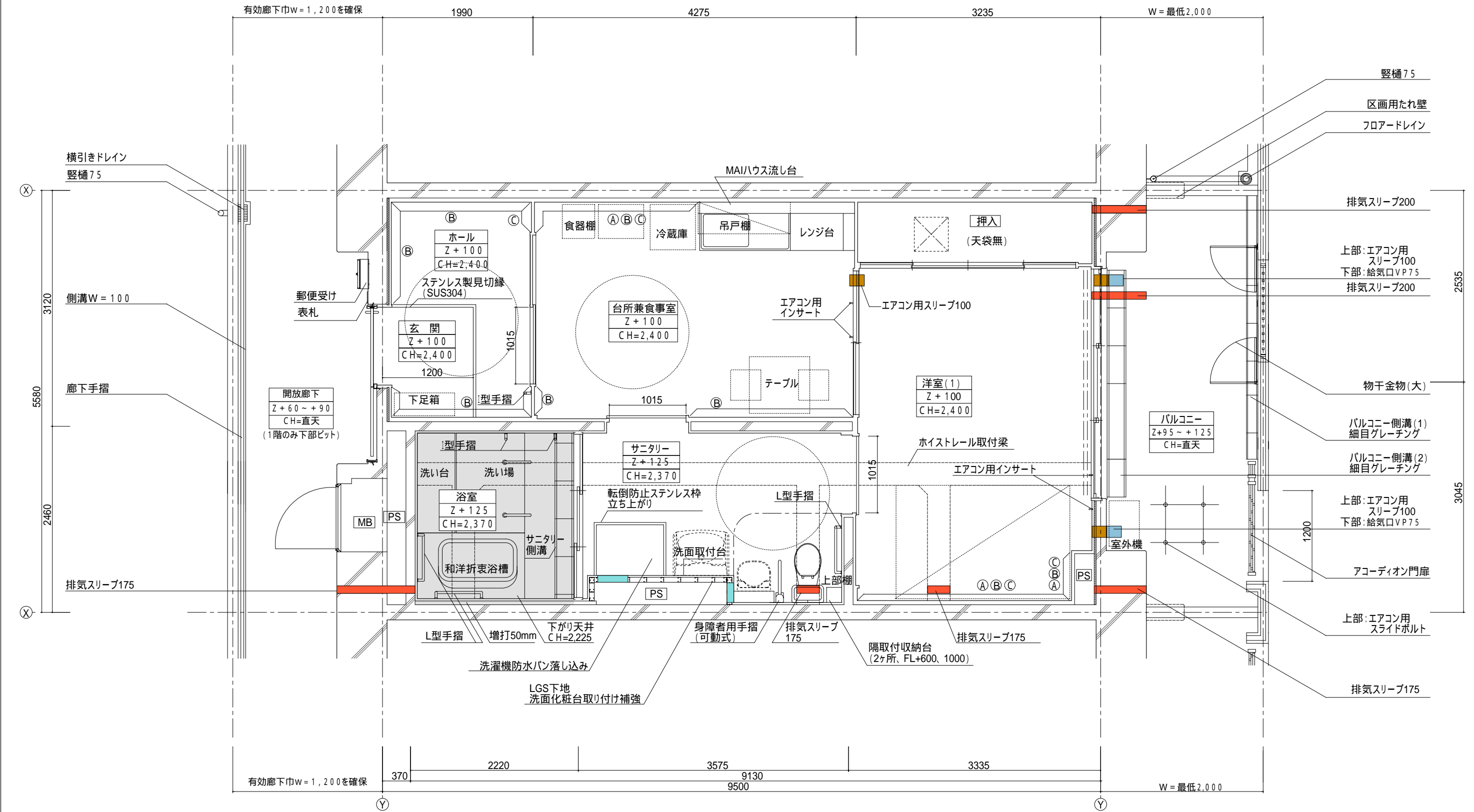
添付図 標準平面詳細図(4DK) この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



凡例	<table border="1"> <tr><th>室名</th></tr> <tr><td>床高さ(F.L)</td></tr> <tr><td>天井高さ</td></tr> </table> <p>*Zは各階の スラブ天端とする。</p>	室名	床高さ(F.L)	天井高さ	<ul style="list-style-type: none"> 排気スリーブ 給気口 給気スリーブ(ダクト有り) エアコン用スリーブ 	<ul style="list-style-type: none"> 部分はスラブ天Z+60 部分はスラブ天SL-280 断熱材 点検口 天井点検口 	<ul style="list-style-type: none"> (A) 転倒防止付鴨居 (B) 将来手摺下地補強 (C) 腰高家具等転落防止金具取付下地補強 --- カーテンレール(S) === カーテンレール(W) 	<p>特記事項</p> <p>1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JIS A 9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。</p>
	室名							
床高さ(F.L)								
天井高さ								

添付図 標準平面詳細図(MAIハウス1DK)

この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



凡例

室名	
床高さ(FL)	
天井高さ	
*Zは各階の スラブ天端とする。	

- 排気スリーブ
- 給気口
- 給気スリーブ(ダクト有り)
- エアコン用スリーブ
- 部分はスラブ天Z+60
- 部分はスラブ天SL-280
- 断熱材
- 点検口
- 天井点検口

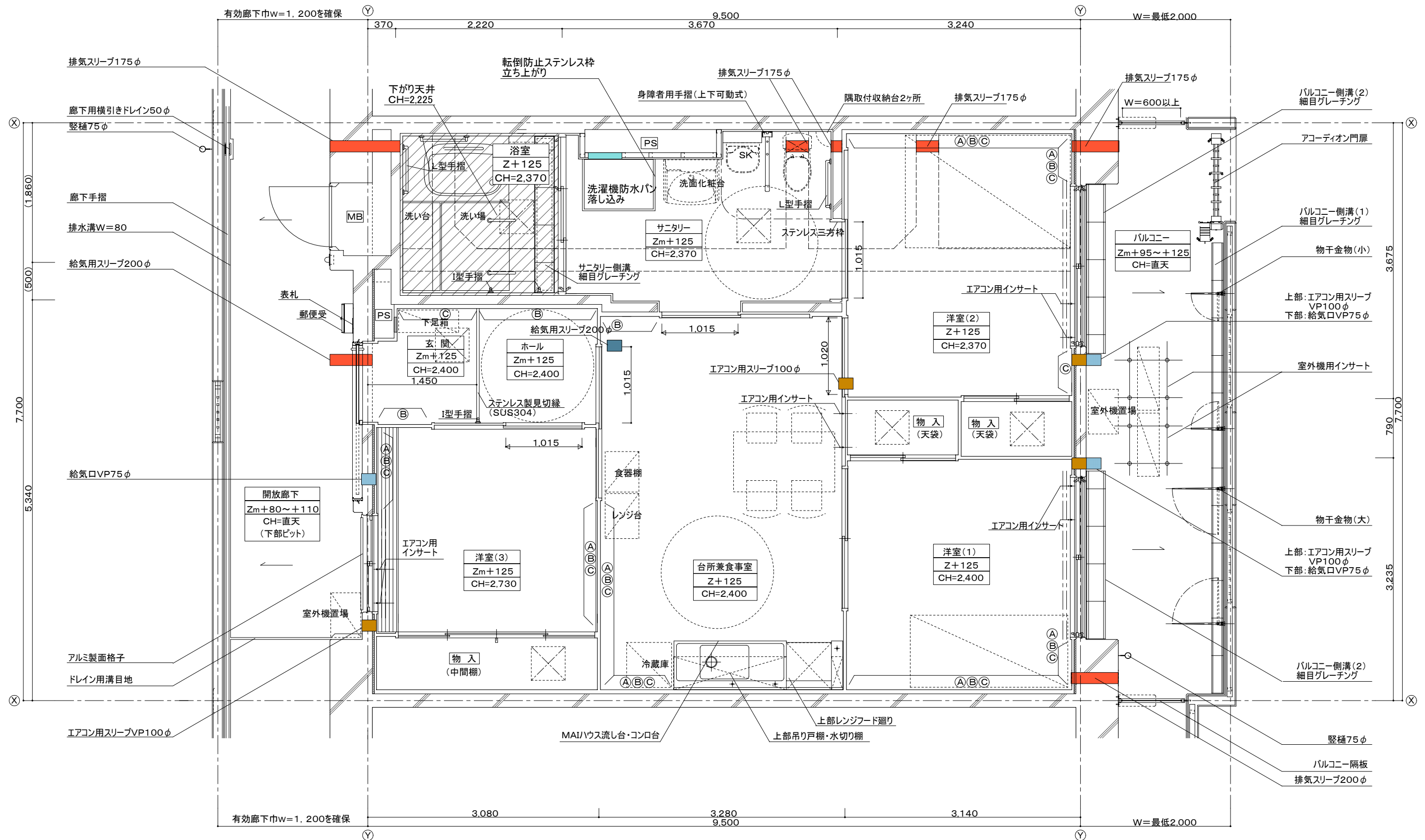
- (A) 転倒防止付鴨居
- (B) 将来手摺下地補強
- (C) 腰高家具等転落防止金具取付下地補強
- カーテンレール(S)
- === カーテンレール(W)

特記事項

1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JIS A 9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。

添付図⑬ 標準平面詳細図(MAIハウス 3DK)

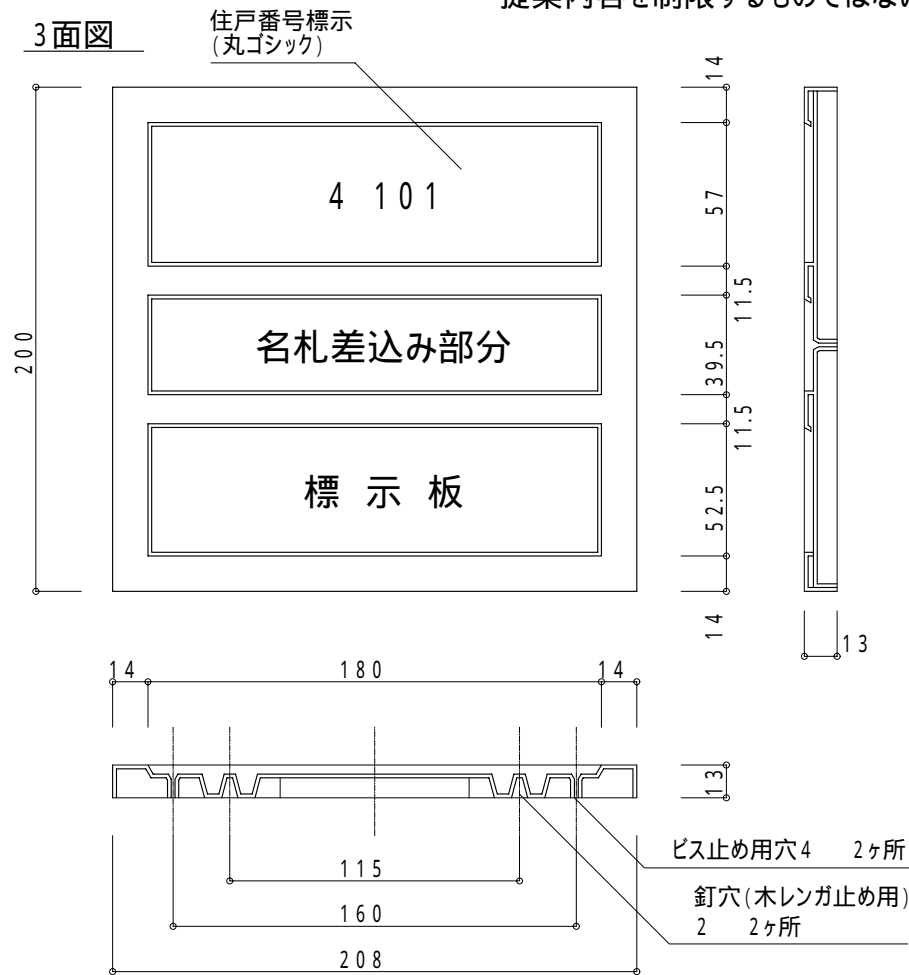
※この図面は参考であり、提案内容を制限するものではない。



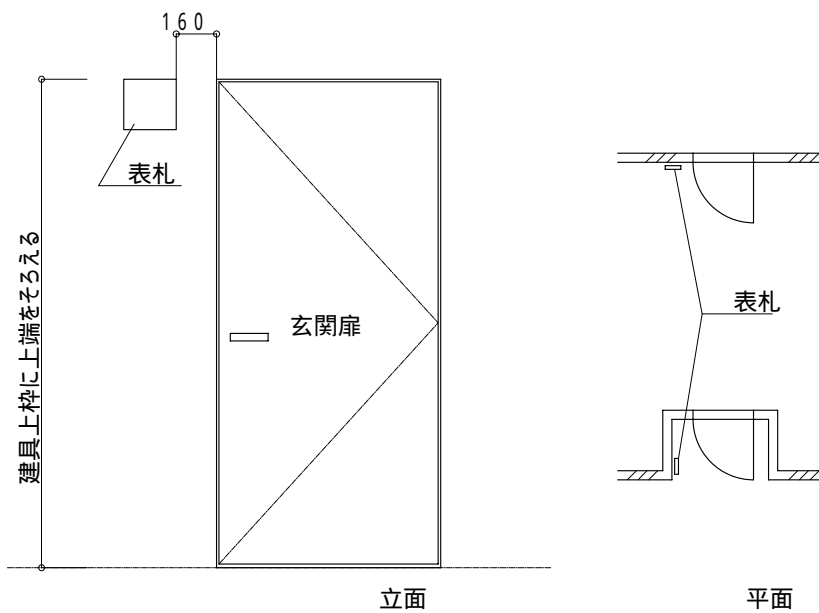
凡例	<table border="1"> <tr><th>室名</th></tr> <tr><td>床高さ(FL)</td></tr> <tr><td>天井高さ</td></tr> </table> <p>*Zは各階の スラブ天端とする。</p>	室名	床高さ(FL)	天井高さ	<p>■ 排気スリーブ</p> <p>■ 給気口</p> <p>■ 給気スリーブ(ダクト有り)</p> <p>■ エアコン用スリーブ</p>	<p>□ 部分はスラブ天Z+60</p> <p>□ 部分はスラブ天SL-280</p> <p>— 断熱材</p> <p>■ 点検口</p> <p>■ 天井点検口</p>	<p>(A) 転倒防止付鴨居</p> <p>(B) 将来手摺下地補強</p> <p>(C) 腰高家具等転落防止金具取付下地補強</p> <p>--- カーテンレール(S)</p> <p>=== カーテンレール(W)</p>	特記事項
	室名							
床高さ(FL)								
天井高さ								
				<p>1) 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下(外壁面から900mm迄)には、ポリスチレンフォーム保温材B類3種(JISA9511)厚さ25mm同等以上の断熱材を躯体に設ける事。</p>				

添付図 各部詳細図(表札 住戸)

この図面は参考であり、
提案内容を制限するものではない。



標準取付位置



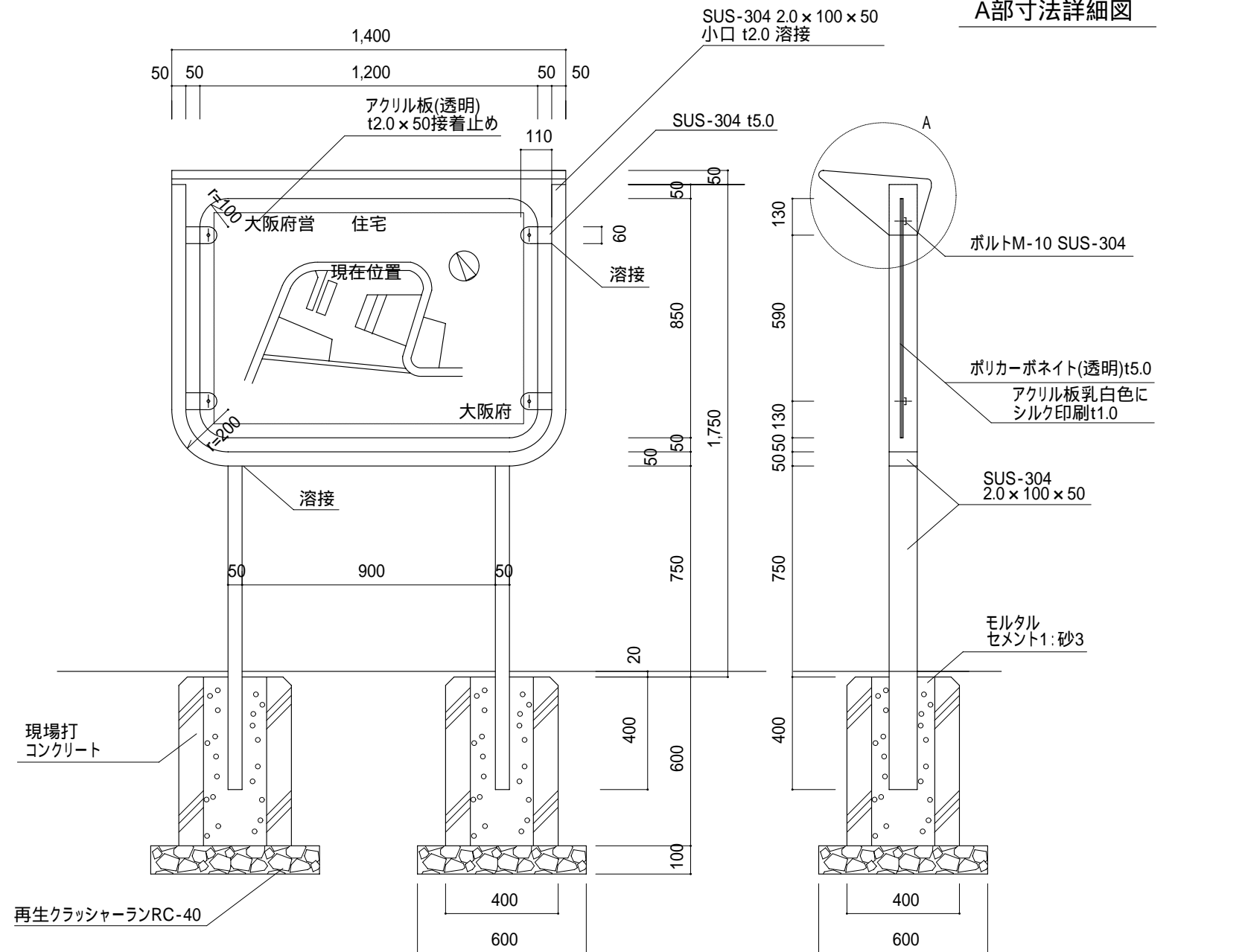
特記事項

- 1) 材質はABS樹脂性 t=1.5とする。
- 2) 取付は、ナイロンプラグ(接着剤併用ビス) SUSビスとする。
- 3) 名札はケント紙の上、塩ビ透明板(t=1.5) カバー取付とする。
- 4) 書体は丸ゴシックとする。(要事前確認)
- 5) 住区方式による住居表示の実施基準及び大阪市条例に準ずること。

添付図 各部詳細図(案内板 敷地内)

この図面は参考であり、
提案内容を制限するものではない。

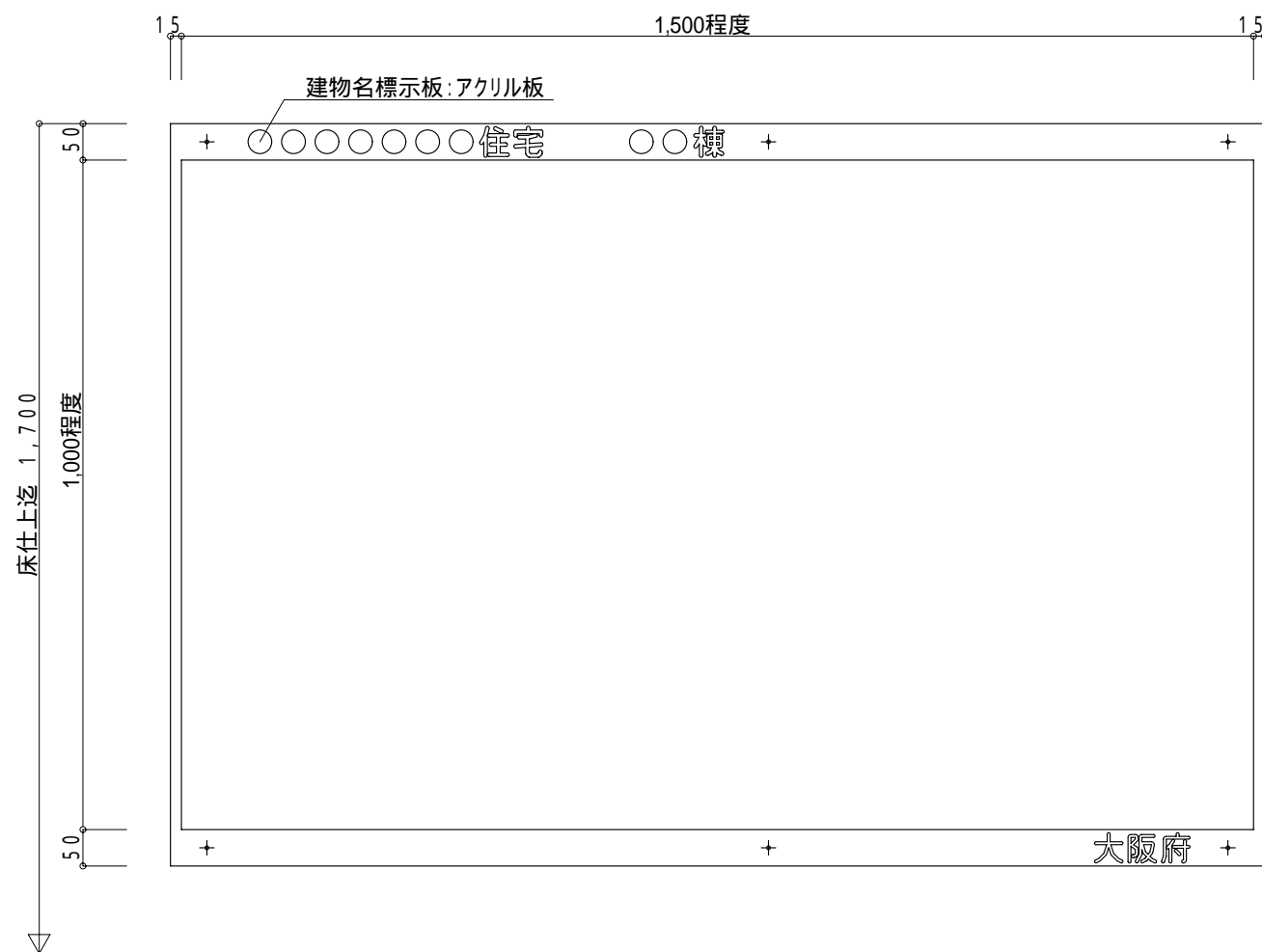
団地案内板



特記事項

- 1) 表示内容は、住宅名・大阪府・方位・現在位置・道路・住宅・集会所・その他とする。
また、住宅・集会所には棟番号等を記入すること。
- 2) シルク印刷の配色は、
住棟-黄色、道路-茶色、公園・植栽-緑色、受水槽・電気室・ゴミ置場-青色、現在地-赤色、文字-黒色とする。

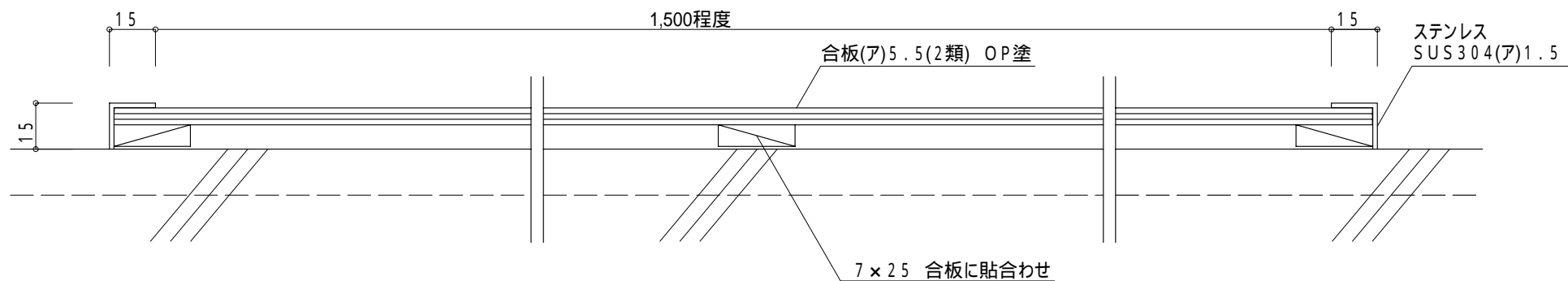
正面図



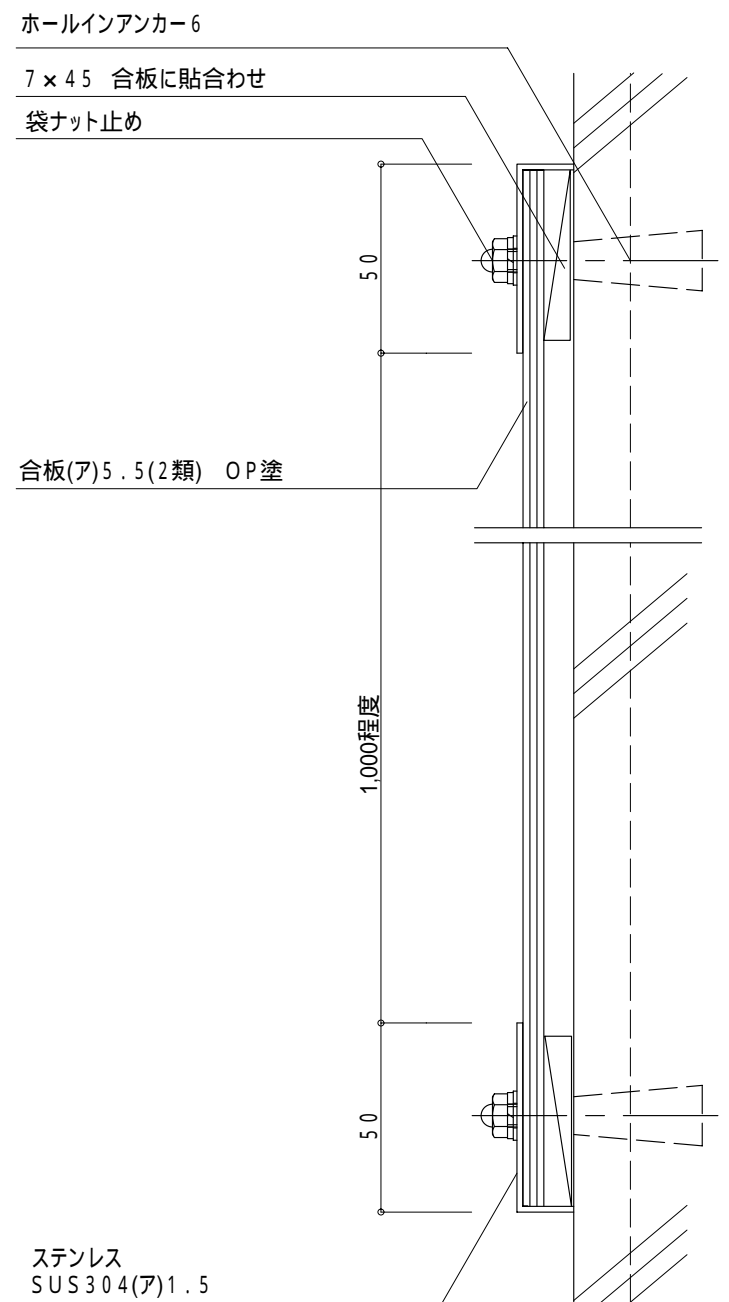
特記事項

1) 階数・戸番号及びその他の表示は、文字色:黒、書体:丸ゴシックのカッティングシートで製作すること。

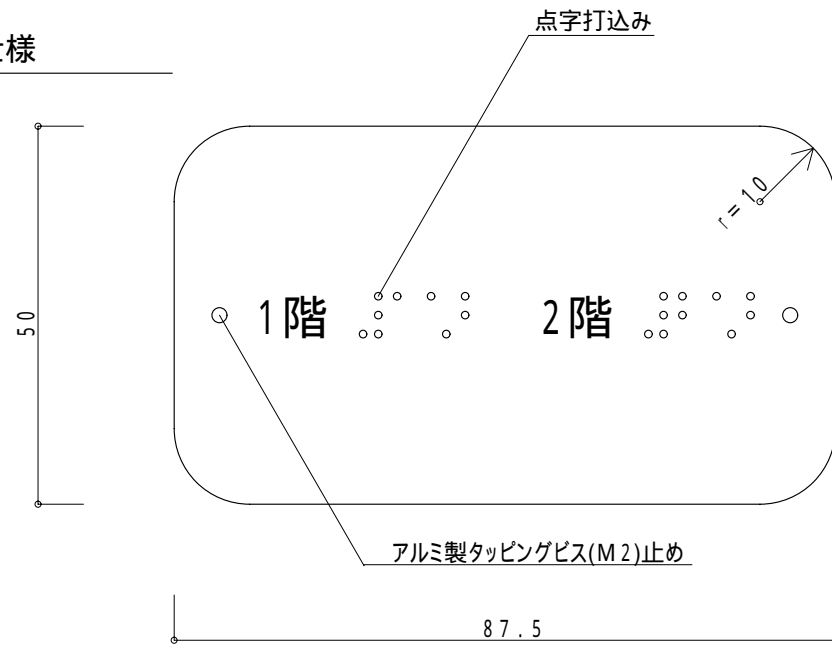
水平断面図



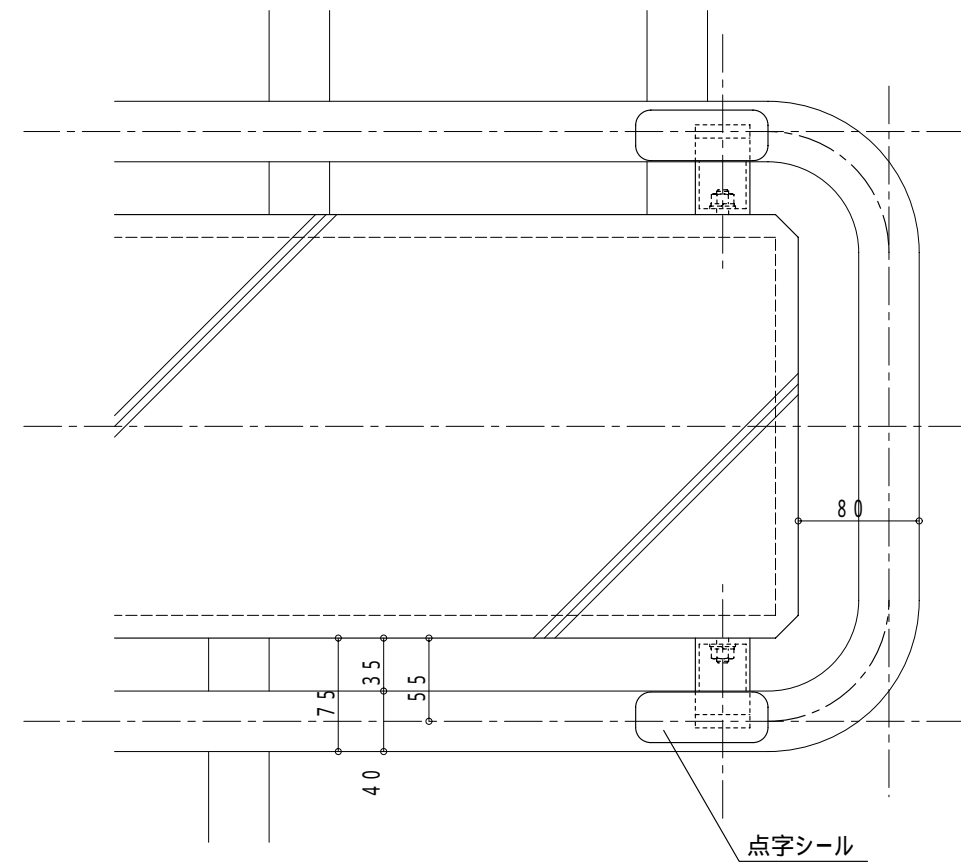
垂直断面図



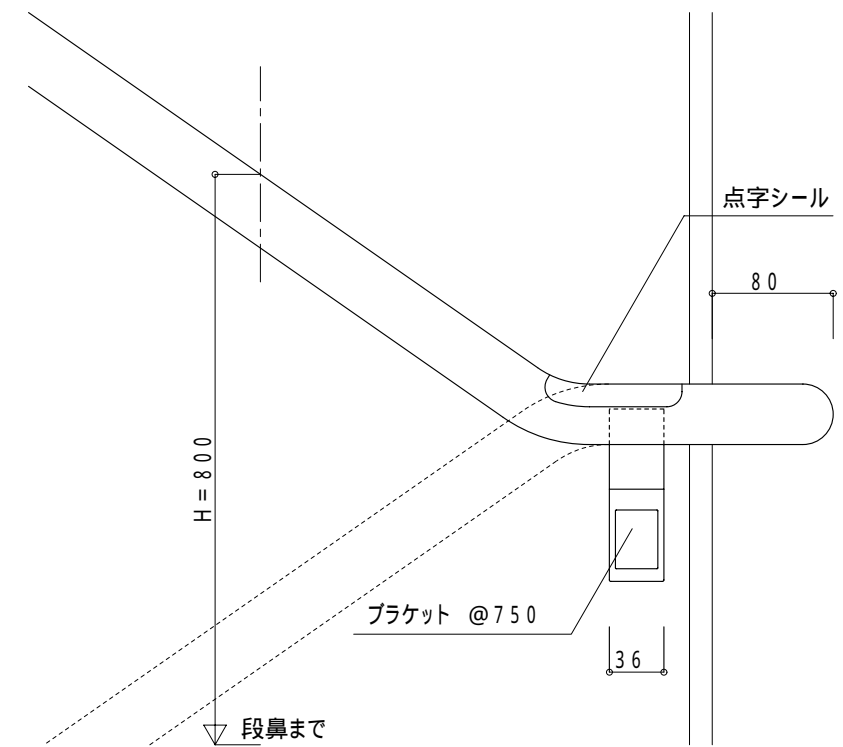
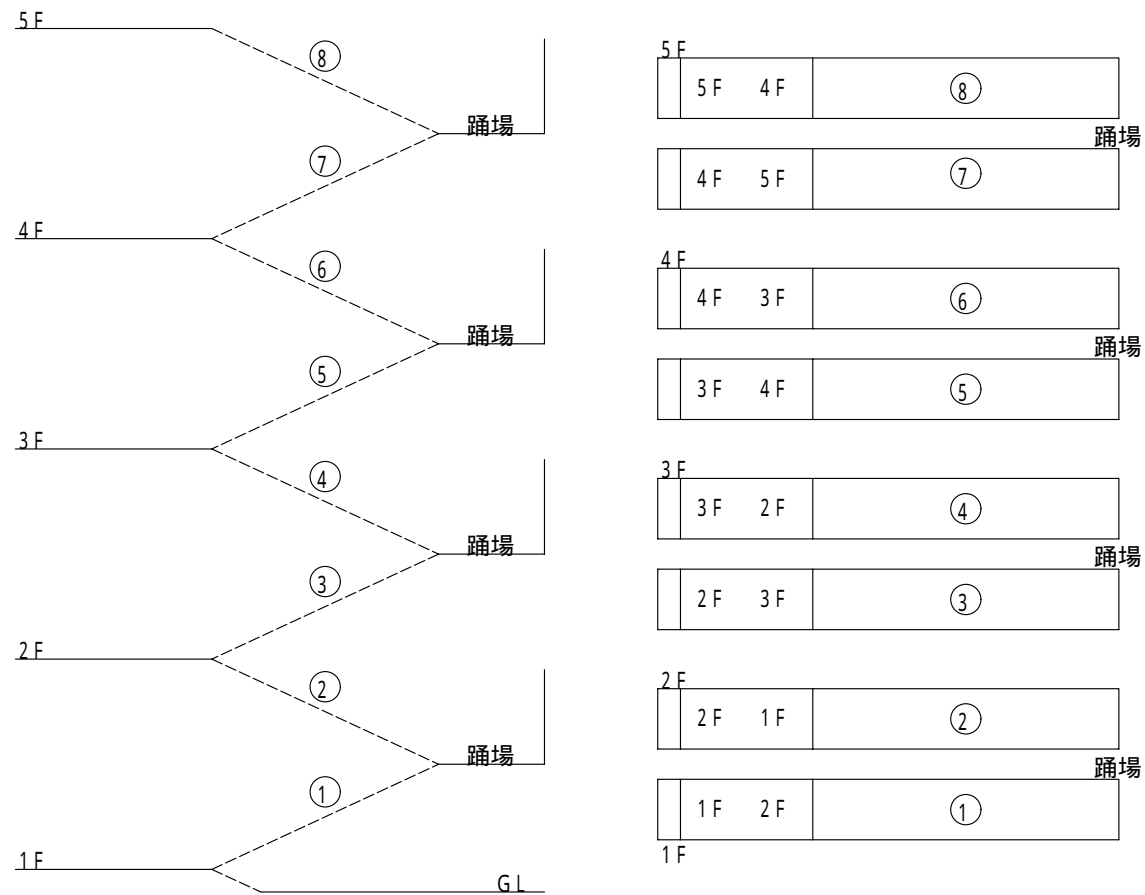
点字表示板の仕様



端部断面図

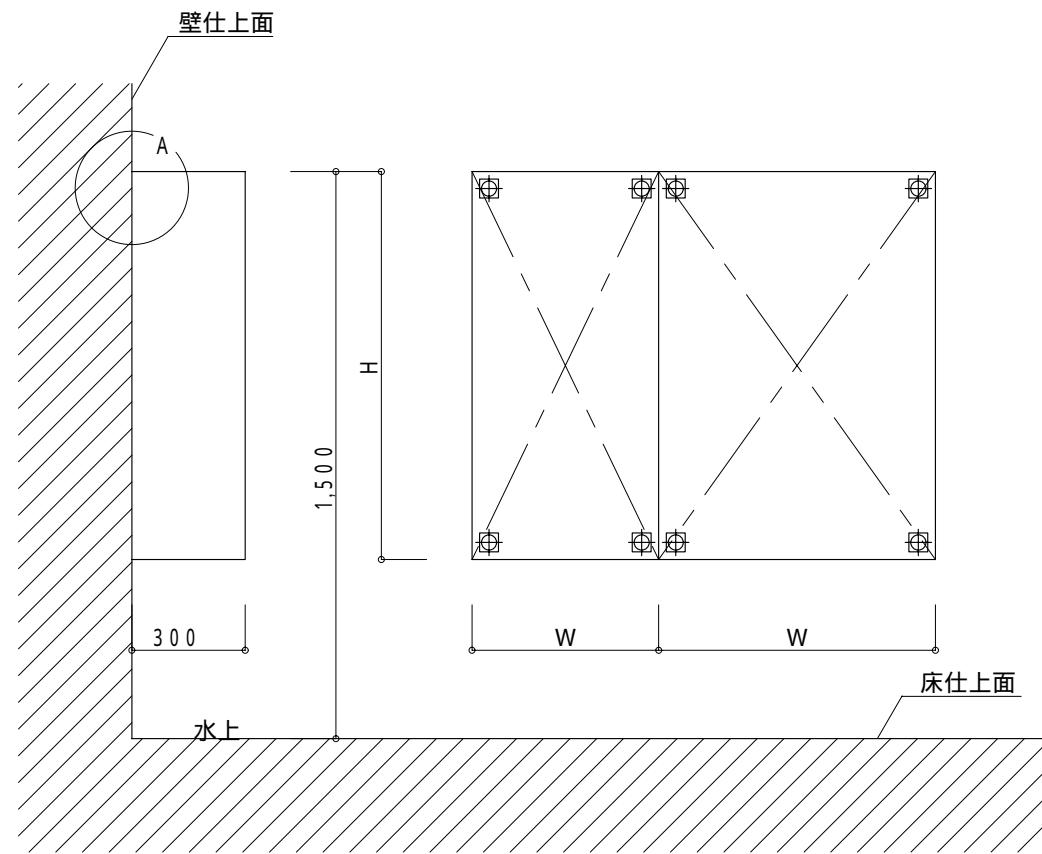


点字プレート設置例

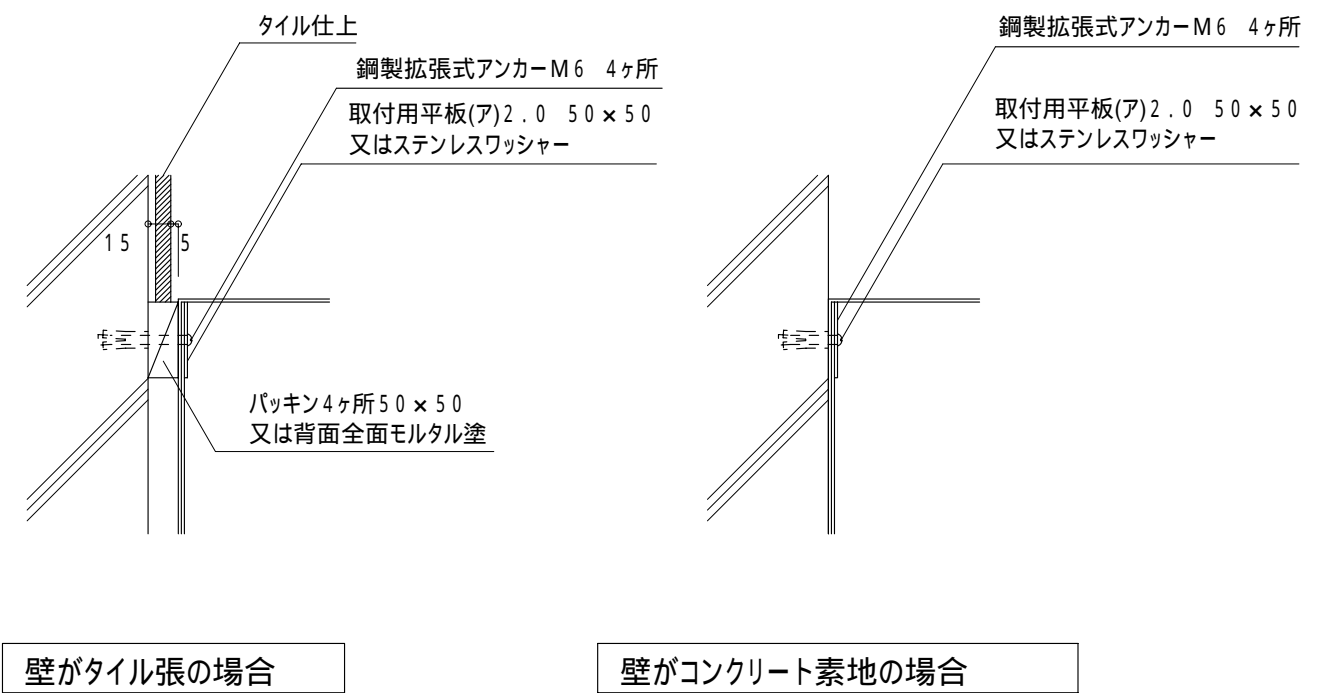


特記事項

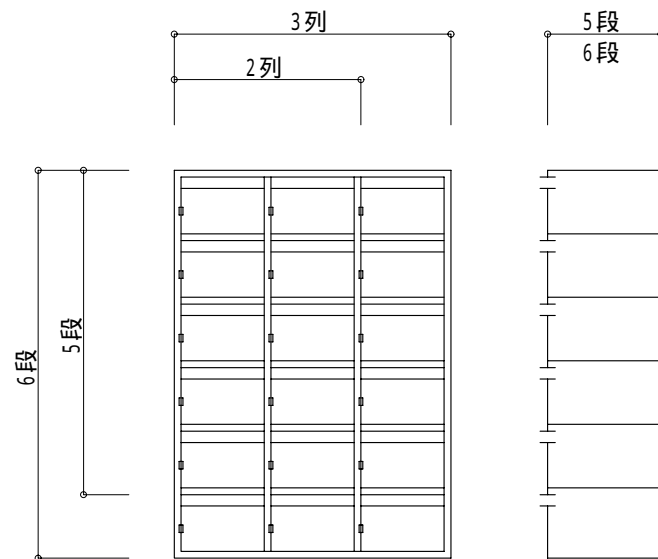
- 1) 材質は、アルミニウム板(A)0.3のヘアライン仕上げとする。
- 2) 基板は、全面にテープ(VHB接着材Y4G15 (A)0.4)を貼ること。
- 3) 手摺形状に合わせる為、H方向に対し再度加工仕上とする。



設置高さ位置図



A部詳細図



A型 - 縦型

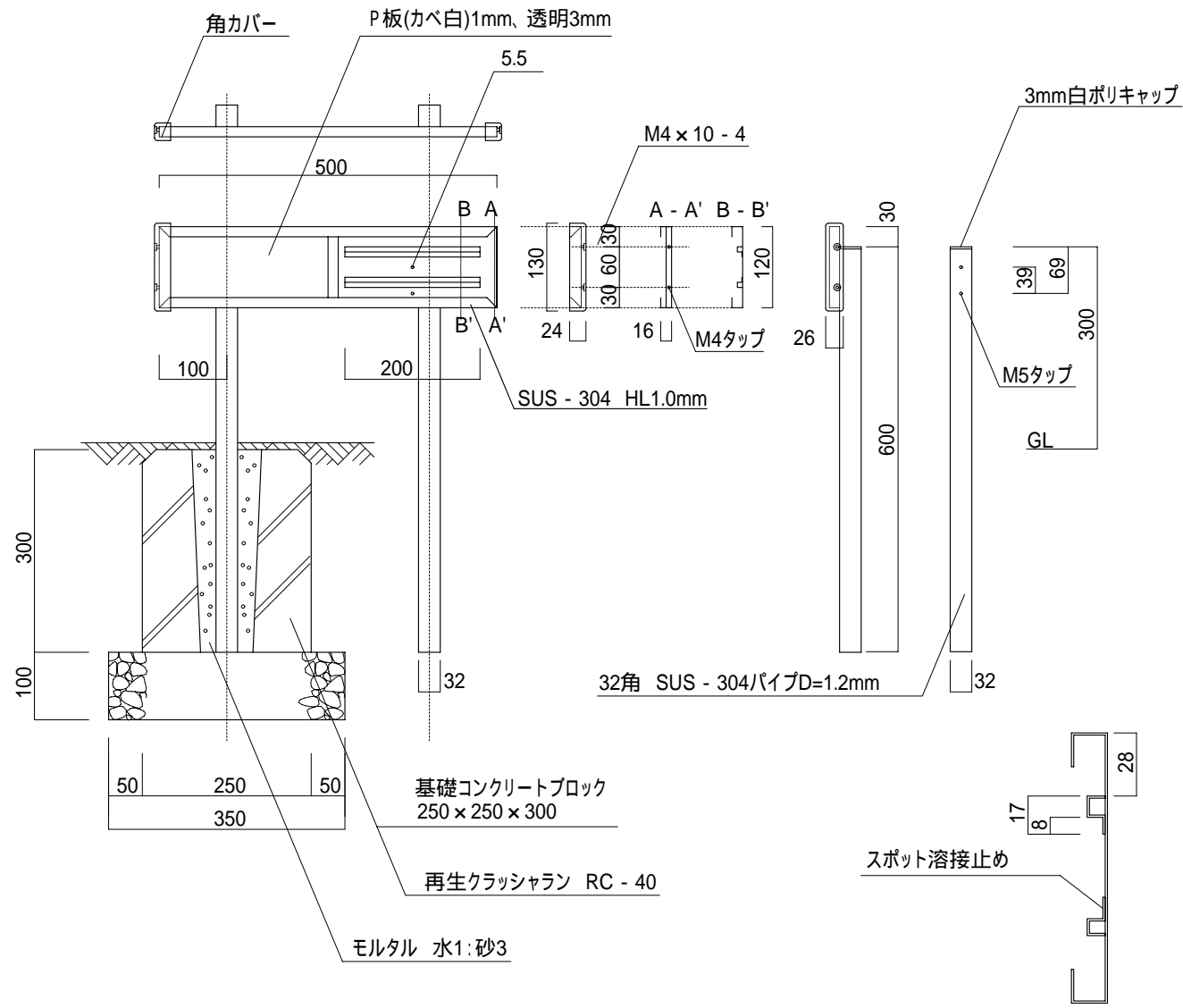
特記事項

- 1) 住戸番号はアルミ製シール貼付又はエナメルペイント文字書きとする。
- 2) 郵便箱は、BL製品A型(縦型)とする。

		A型 縦型		
区分		5段 2列	6段 2列	6段 3列
寸 法	W(mm)	494		732
	H(mm)	858	1026	
	D(mm)	300		

駐車場ナンバープレート(脚付)

* 1台分の表示の場合、ハネルのWを250mmにし、足を1本で製作すること。



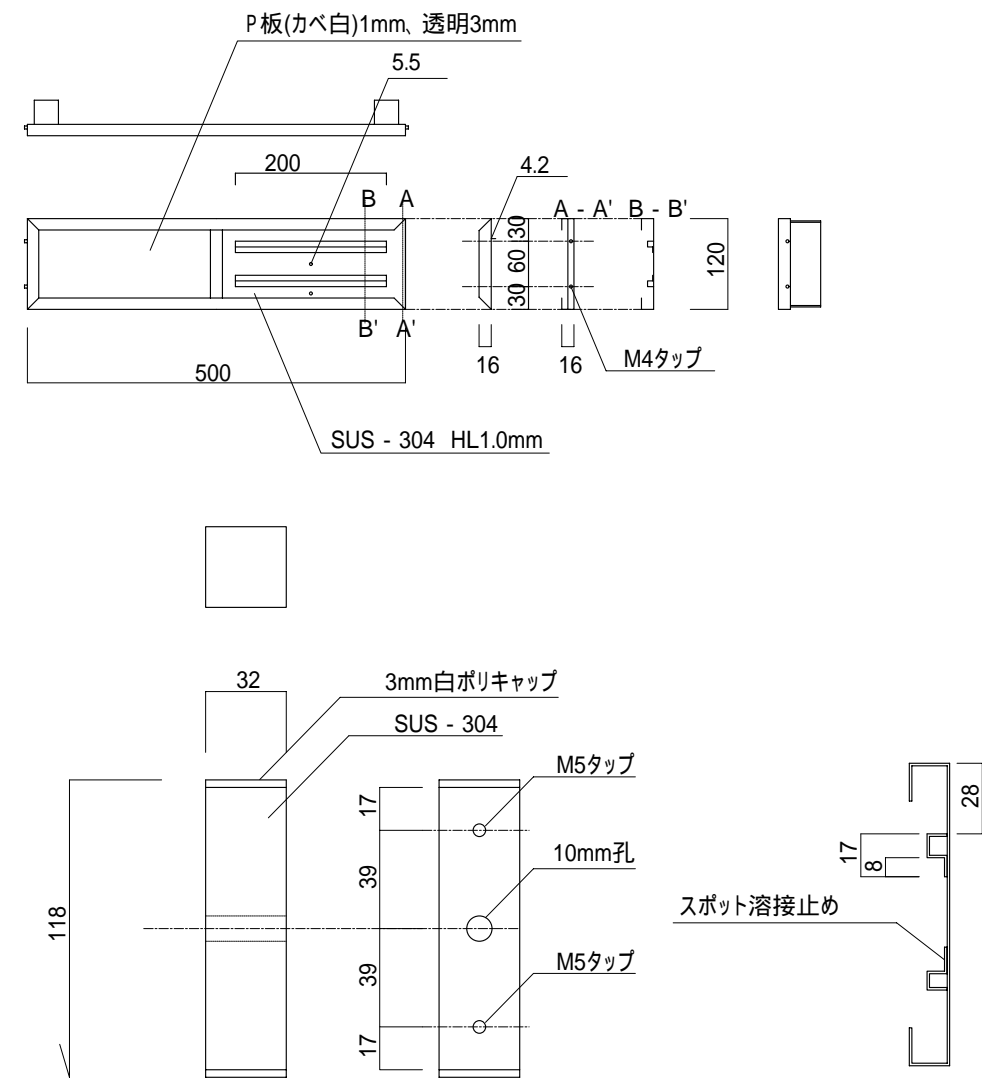
詳細図

特記事項

- 1) 基礎コンクリートは既製コンクリートブロックとする。
- 2) 角カバーの材質は、エラストマン樹脂とし、シルバーグレー色とする。

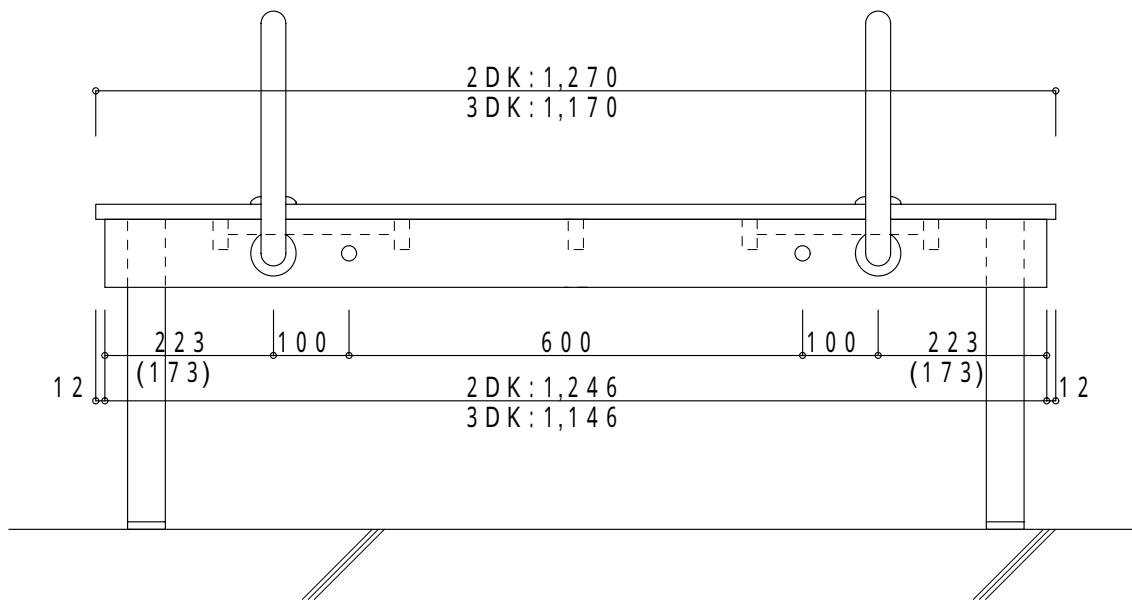
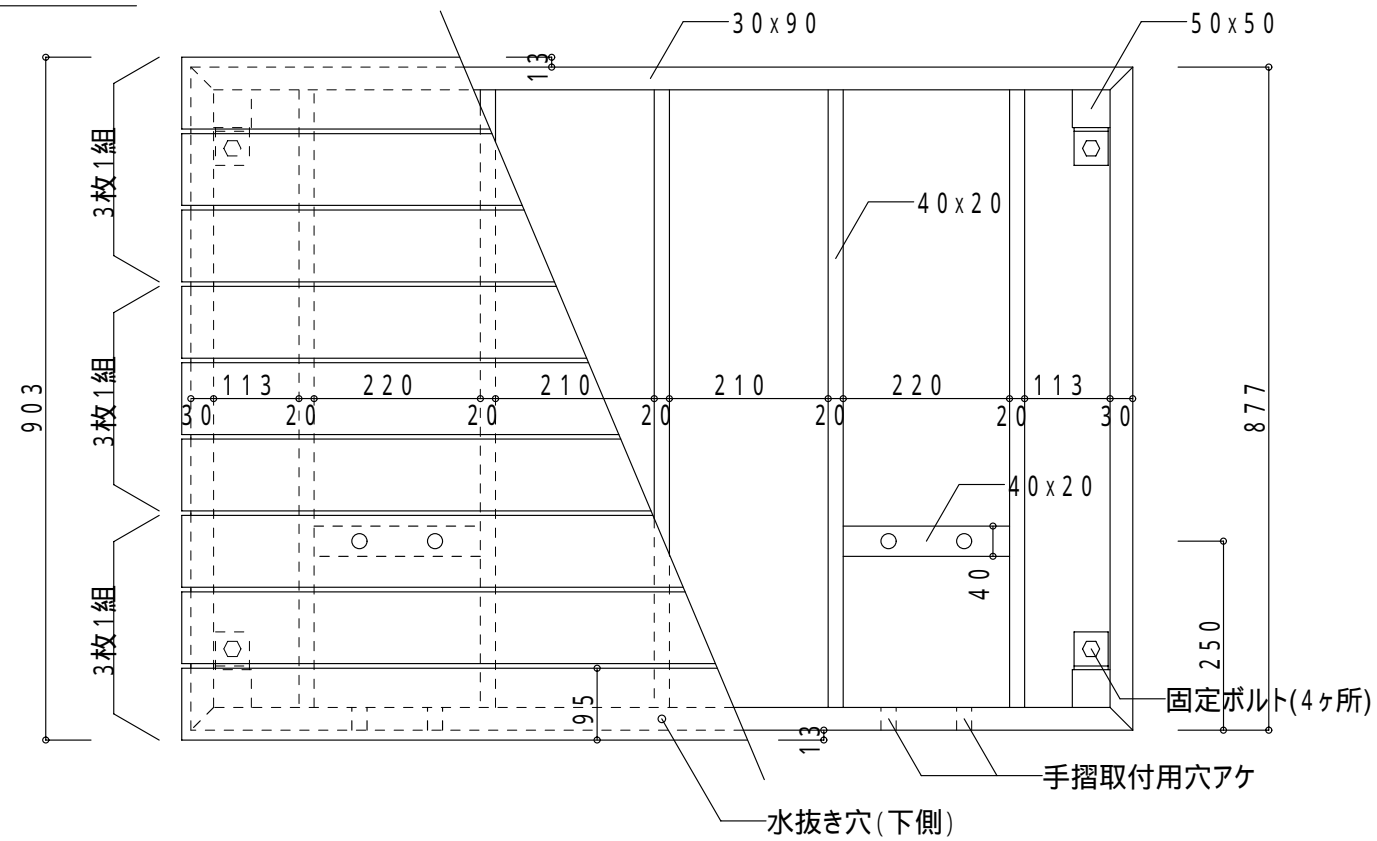
駐車場ナンバープレート(脚付)

* 1台分の表示の場合、ハネルのWを200mmにすること。



詳細図

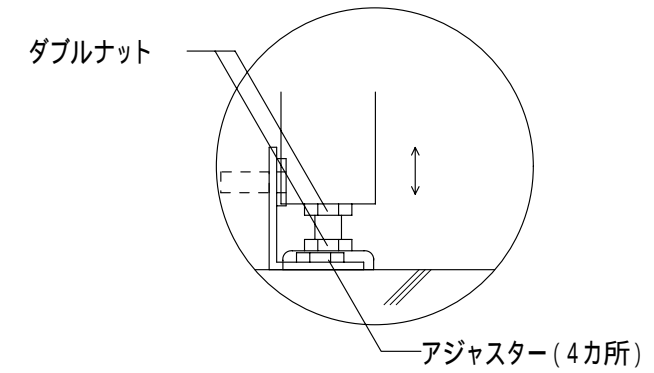
洗い台 3面図



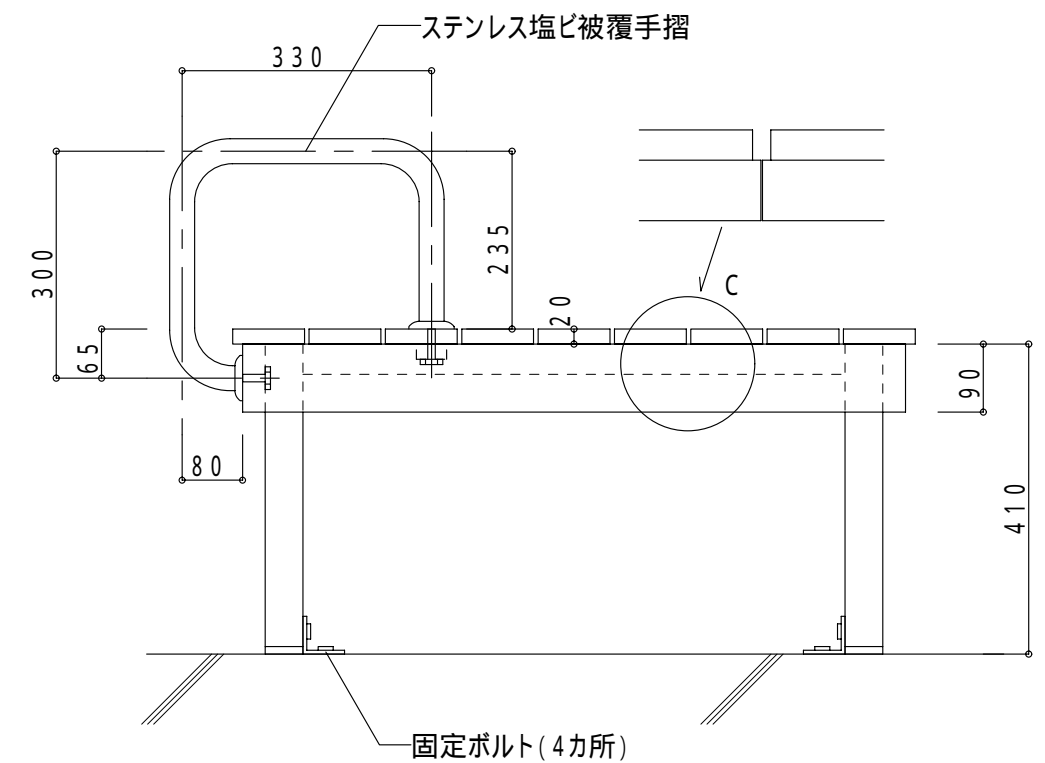
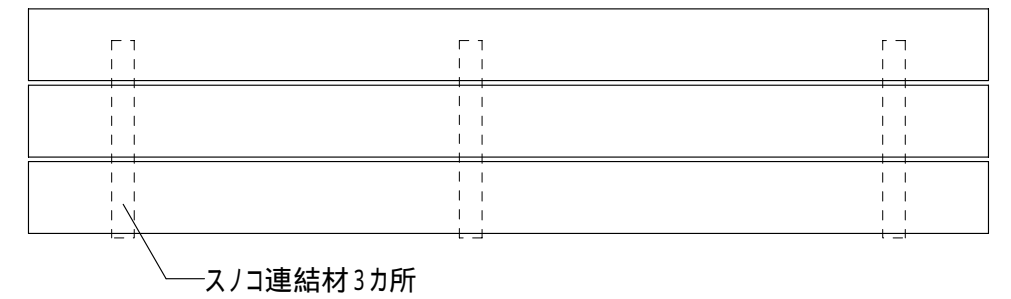
特記事項

- ・座本体 発泡ポリスチレン 1,270×95×20
- ・台本体 SUS304 ステンレス t=1.5(柱 t=2.0)
- ・手すり ステンレス塩ビ被覆 34

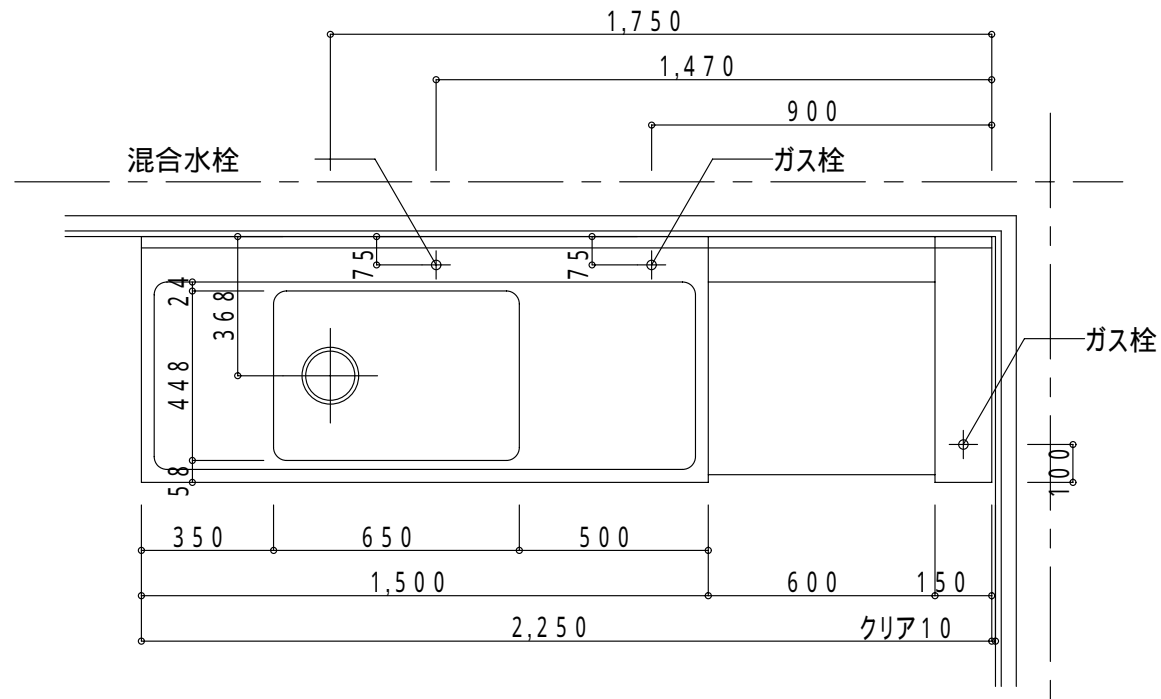
台本体には水抜き穴をあける。(1ヶ所)
座本体は3枚1セットで台より取り外し可能とする。



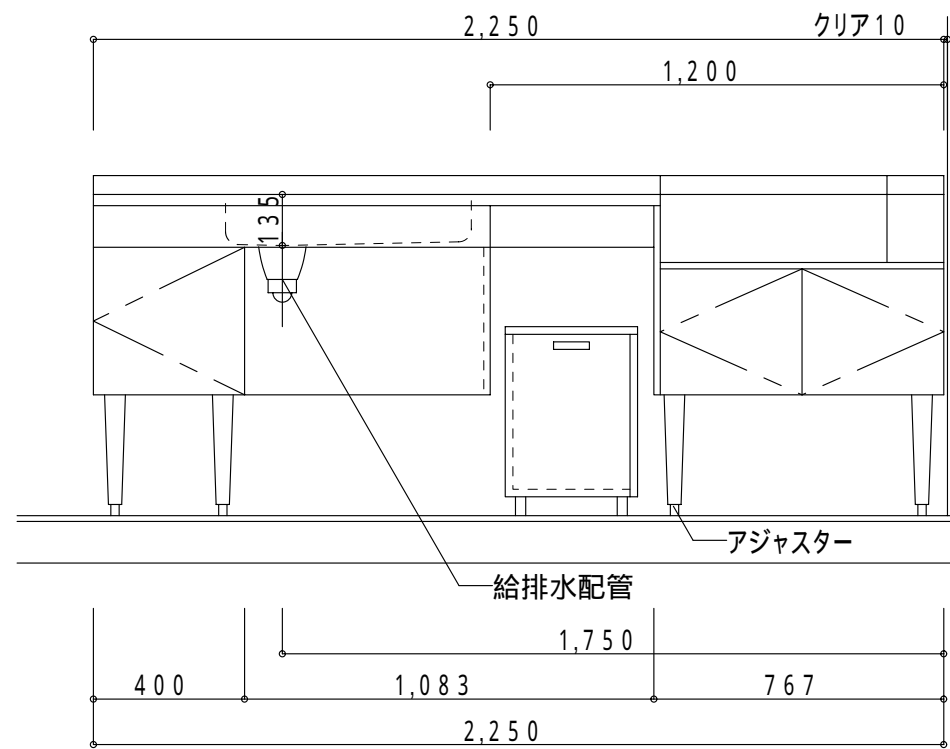
固定ボルト詳細図



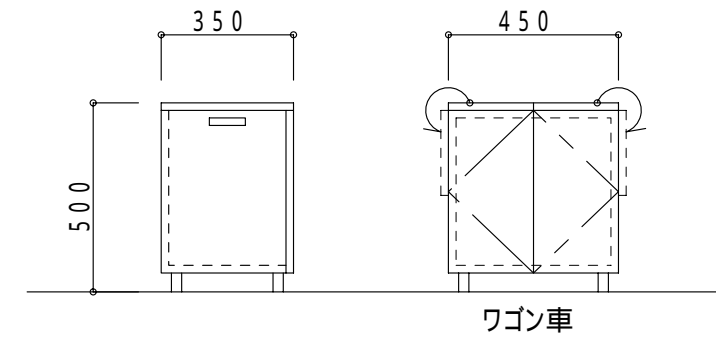
流し台・コンロ台 平面図



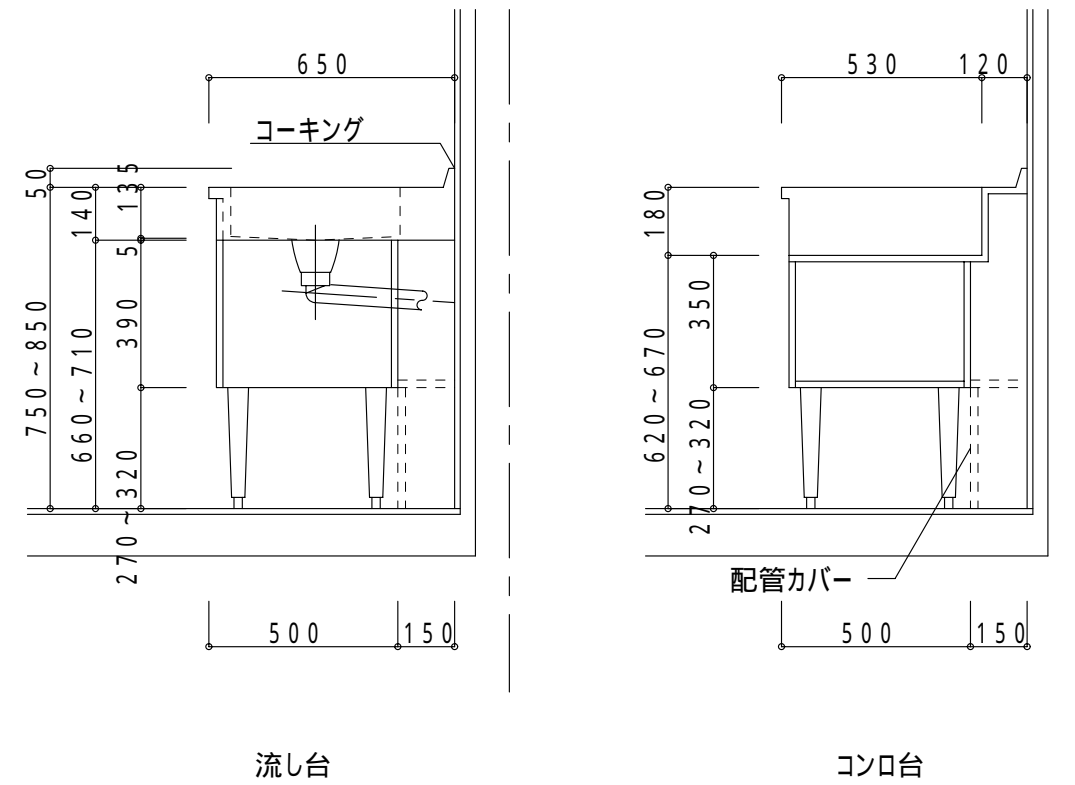
流し台・コンロ台



ワゴン車 側面図



流し台・コンロ台 断面図



特記事項

- ・流し台、コンロ台は、BL仕様に準ずる。
- ・ワゴン車を付属品として用意すること。
- ・下地材は、不燃材とする。

流し台・コンロ台の仕上
 シンク・コンロ台天板: ステンレスSUS304 t=1.7
 側板: ポリエステル樹脂化粧板
 取手: ABS樹脂
 キャビネット: 塗装合板
 脚: ステンレスパイプ
 部品: 包丁差

ワゴン車
 天板:メラミン樹脂化粧板
 キャビネット: 塗装合板
 取手: ABS樹脂
 部品: キャスター